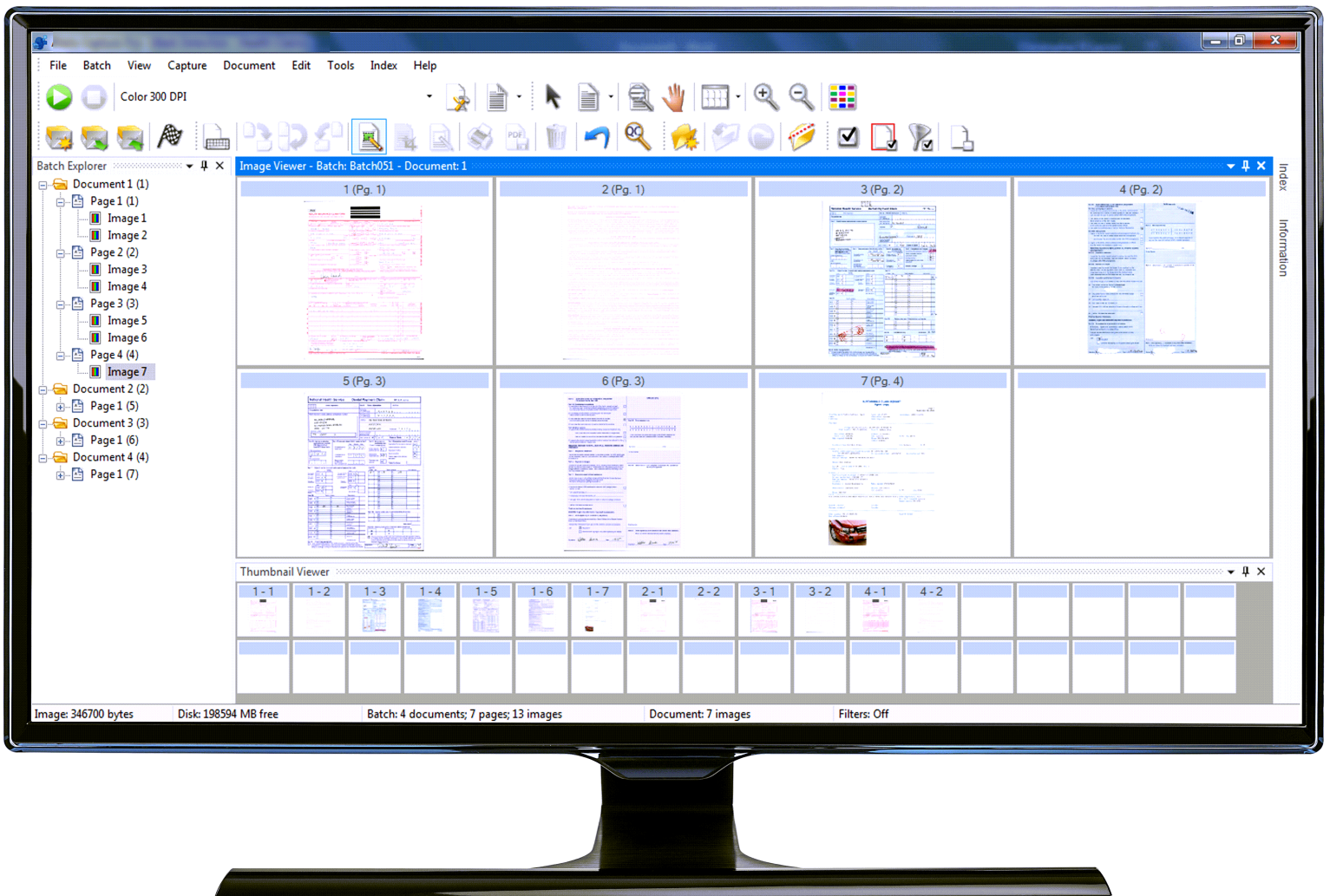


Kodak

キャプチャソフトウェア

ネットワークエディション：システム案内



紹介：キャプチャ プロ ネットワークエディション

内容

目的	i
リモート管理 (RA)	ii
初回同期	ii
セットアップの更新	ii
データの競合	iii
セットアップの削除とその名前の変更	iv
集中型バッチカウンタ	iv
リモート出力	v
出力サーバの設定	v
ライセンスサーバ	v
フェールオーバー	vi

この章では、キャプチャプロネットワークエディションとその独自の機能のいくつかを紹介します。

目的

キャプチャプロソフトウェアネットワークエディションを使用すると、一連のネットワークエディションサーバを使用し、以下の用途でキャプチャプロのワークステーションを相互に連携させることができます。

- 接続したワークステーション間でセットアップを自動的に共有するためのリモート管理
- クライアントがドングルなしで操作できるための集中型ライセンスサーバ
- 集中型バッチカウンタ
- コンピュータ集約型の出力ジョブを出力サーバにオフロードするためのリモート出力

リモート管理 (RA)

キャプチャソフトウェアは、様々な「セットアップ」(ジョブ、ページ、ユーザなど)をファイルで保持します。キャプチャソフトウェアネットワークエディションでは、加入したワークステーション間でセットアップのファイルを複製することにより、グローバルな共通のセットアップを共有することができます。これらのワークステーションがセットアップの変更やその他のリモート管理機能(バッチカウンタなど)にアクセスする必要がない場合、一部の操作はオフラインで実行することができます。

ネットワークエディションのワークグループに含まれる全てのワークステーションは、同一のセットアップファイルを共有します。特定のワークステーション用のローカルの独自のセットアップはサポートされていません。リモート管理は少数の管理者で簡単に使用できるように設計されていますが、同じセットアップを並行して更新するユーザがそのセットアップを上書きして不慮にデータが破壊されないように防止するための保護手段が組み込まれています。

初回同期

キャプチャソフトウェアネットワークエディションのクライアントは、初めて起動する際、RAサーバと同期します。これは数分間かかる場合があります。

同期中:

- クライアント上に存在しないサーバ上のセットアップは全てクライアントにコピーされます。
- サーバ上に存在しないクライアント上のセットアップは全てにセットアップがサーバにコピーされます。
- 重複するセットアップが存在する場合、サーバのセットアップはクライアントのセットアップを上書きします。

この操作が成功すると、ワークステーション間で共通のセットアップが定期的な更新によって維持されるので、アプリケーションの再起動時に同期する必要はありません。

同期中にエラーが発生した場合、クライアントが終了し、操作をやり直します。

セットアップの更新

一度同期すると、ネットワークエディションのクライアントが定期的に RAサーバをポーリングして更新をチェックします。

特定のセットアップはそれぞれバージョン管理され、全てのセットアップと現在のバージョンを示すデータベースがクライアントごとに維持されます。新しいセットアップ又は既存のセットアップの新しいバージョンがサーバ上で検出された場合、それが自動的にクライアントにダウンロードされます。

データの競合

バージョン管理は、セットアップの更新又は作成中のデータの競合を防止するために使用されます。ユーザがセットアップを作又は変更すると、以下が発生し：

1. ユーザが[セットアップ]ダイアログボックスを開きます。
2. システムは、現在セットアップを変更するユーザがいないことをチェックします。一部のファイルは、種類の異なるセットアップファイルで共有されているので、一度に1つのワークステーションのみが更新を実行できます。いずれかのセットアップを開いている場合、ユーザは後でやり直すように要求されます。

注記： 上書きオプションは利用できますが、お勧めしません。これにより、ユーザはロックを横取りできますが、データの競合が発生する可能性があります。

3. ユーザが新規又は変更されたセットアップを記憶します。
4. 更新サービスは、ワークステーションにセットアップの最新バージョンがあることを確認します（そのバージョンが以前から存在している場合）。

サーバ上に最新バージョンがあることをサービスが検出した場合、アプリケーションにデータの競合エラーが返されます。このようなエラーは滅多に発生しませんが、発生した場合は、ユーザがセットアップを又は他の処理の副作用として発生した他のバックグラウンドの更新を横取りする結果です。ユーザは以下のように対処でき、

- セットアップに別の名前を選択し若しくはそれらの変更を破棄し、又は、
 - [セットアップ]ウィンドウを終了し、競合が解決するのを待ち、更新サイクルに続いて変更をやり直す。
5. アップロードの進行中に他のワークステーションがセットアップを変更することを防止するように、更新サービスはそのセットアップをロックします。更新サービスがロックを取得できない場合（別のユーザがセットアップを更新中の場合）、データの競合エラーをもたらします。このエラーに対する解決策は、手順2で説明した内容と同じです。
 6. データの競合が発生しない場合、セットアップがサーバにアップロードされ、特定のセットアップファイルのバージョンをインクリメントします。
 7. 他のワークステーションは、サーバ上の最新バージョンを検出してダウンロードします。

変更は、変更が行われた場合にクライアントからサーバに送信されますが、サーバからクライアントへの新しいセットアップのダウンロードは定期的に行うので、イベント駆動型ではありません。従って、新しいセットアップが作成されてから複製されて他のワークステーションで可視になるまでの間、わずかな遅延が発生します。このプロセスが発生するまでに、少なくとも2分間程度の時間を待つことをお勧めします。この間、データの競合が続く可能性があります。更新サイクルが発生することを待つだけで、同期に戻り、更新操作を続行できます。データの競合が発生した後、ユーザはセットアップウィンドウを全て閉じ、データの更新が行われてからセットアップを再度開くことをお勧めします。

セットアップの削除とその名前の変更

現時点では、NE ワークグループ内の他のワークステーションで使用中のセットアップを有するかどうかを検出できないので、そのセットアップを削除したり名前を変更したりすることはできません。

集中型バッチカウンタ

リモート管理サーバは、システムレベルとジョブレベルの両方で、集中型バッチカウンタ機能をサポートしています。

これらのカウンタは、NE のワークグループ全体で共有されます。バッチが作成される際にバッチ名の書式にバッチカウンタが含まれる場合、NE クライアントは、RA サーバから次のカウンタを要求し、自動的にカウンタアップします。

これに対応するために、NE クライアントにいくつかの変更を施しました。カウンタはグローバルなので、ユーザは新しいバッチの作成時にバッチカウンタを変更することができなくなりました。バッチ名のウィンドウは「グレー表示」になります。これはバッチ名の書式にバッチカウンタを含むジョブは、オフラインモードでは使用できないことを意味します。

ネットワークエディションでは、システムレベルのバッチカウンタは誰も変更できません。ジョブレベルのバッチカウンタはジョブセットアップでリセットができますが、バッチ名の競合を回避するために、これを行う場合は注意してください。

リモート出力

オプションのリモート出力サーバは、出力処理のためにバッチ全体をリモートサーバに転送します。この機能は、プロセッサ集約型の出力タスク（検索可能なPDFファイルの作成など）をクライアントワークステーションからオフロードします。ベンチマークテストでは、リモート出力は、ローカル処理又は共有フォルダベースのワークグループと比較し、プロセッサ集約型の出力ジョブのシステム全体の処理能力を大幅に向上させることが実証される。

リモート出力は、[セットアップ]メニューを使用してジョブごとに選択されます。特定のサーバにジョブを割り当てるか、サーバをラウンドロビン方式でリストから選択することができます。

リモート出力のバッチが出力される際、

- ローカル出力プロセッサは、それがリモートバッチであることを検出し、それをリモート出力サーバに転送し、リモートサーバに信号を送り、それ自体のローカルステータスを「処理済み」に設定します。
- リモート出力サーバは、バッチを処理し、バッチ情報ファイルを更新します。
- リモート出力サーバは、送信元クライアントのリモートバッチのステータスの変化を検出し、クライアントにステータス情報とログに転送します。処理後にバッチが削除されると、送信元ワークステーション上でも削除されます。ただし、バッチ履歴は、明示的に削除されるまでキャプチャソフトウェアサーバに保存されます。

処理中にエラーが発生した場合、送信元ワークステーション上で修正を行う必要があり、バッチ全体が再送信されます。サーバ上で使用できているキャプチャプロのクライアントユーザインターフェイスはありません。

出力サーバの設定

リモート出力サーバは、自己設定ではありません。多くのジョブセットアップは、様々なプラグインの存在、特定のパスとディレクトリの存在、ユーザ辞書、その他のオプションで手動設定されたパラメータに依存します。システム管理者は、サーバで処理させるジョブミックスをサポートするために必要な全てのサポートソフトウェア及びその他の設定の準備が整うように、リモート出力サーバを設定する必要があります。

ライセンスサーバ

ライセンスサーバは、NEのクライアントワークステーションにオンデマンドのライセンスを提供します。これは、ネットワークエディションのオプション機能であり、標準的なドングルベースのライセンスは、このセクションで説明した他の機能と組み合わせて引き続き使用できます。

「ドングルなし」モードで操作し、ライセンスサーバからライセンスを取得するために、ユーザは、クライアントからドングルを抜き、キャプチャプロクライアントを再起動するだけで済みます。起動時、ドングルが検出されなかった場合、クライアントは自動的にサーバにライセンスを要求します。

ライセンスが要求され、透過的で自動的に更新されます。障害が発生した場合のみ、ユーザに通知されます。

ライセンスの要求を受信すると、ライセンスサーバは、利用可能なライセンスを検索します。ライセンスサーバは、様々なスキャナーレベルで一連のライセンスを維持しています。ライセンスサーバは、ライセンスの要求を受信すると、要求された正確なスキャナーレベルと一致するライセンスのためにライセンステーブルを検索します。

- 利用可能なライセンスがない場合、ライセンスサーバは、次に高いレベルの利用可能なライセンスを発行します。ライセンスは、**A、B、インデックス、C、D、DX、E、F、G**の順序で発行されます。し従って、全てのAが発行済みの場合、Aライセンスの要求は、Bライセンス以上のライセンスで満たされます。
- 自動インポートライセンスにより、自動インポートの「エディション」ライセンス（自動インポートのみを許可する）又は、E以上（自動インポートを許可し、適切なスキャナーを有効にする）のライセンスが発行されます。
- 利用可能なものがない場合、要求は失敗します。

クライアント（又は出力サーバ）は、ライセンスを受信すると、このライセンスは自動的に更新されます。管理者は、キャプチャプロダッシュボードを使用し、利用可能なライセンス、ライセンスが付与された時期、期限切れになる時期を監視できます。ワークステーションが「スリープ」モードに入ると、ライセンスの更新が失敗する可能性があります。その場合、ライセンスの更新が失敗したことを通知するメッセージが表示されますが、**[OK]**をクリックすると、新しいライセンスが自動的に取得されます。通常、クライアントはバックグラウンドで透過的にライセンスを更新します。

各ライセンスは、特定の期間付与されます。この期間内にライセンスが更新されない場合、クライアントは操作できなくなります。この期間は、10分間に設定されています。ライセンスの有効期限が切れるという警告を発する一方、クライアントは、この期間、動作し続けます。

まれに発生する通信障害やその他の問題のためにライセンスの更新に失敗した場合は、エラーメッセージを確認する必要があるだけで済み、クライアントは新しいライセンスを自動的に取得します。一部のエラーでは、アプリケーションをリセットしなければならない場合があります。

フェールオーバー

ネットワークエディションのクライアントは、ソフトウェアを再設定せずに「フェールオーバー」する機能を備えています。サーバに障害が発生した場合、管理者は各クライアントのサーバマップに事前設定されたバックアップサーバを有効にすることができ、サーバが自動的に検出されます。

- **ライセンスサーバのフェールオーバー**は、大部分が透過的に行われます。最初のライセンス更新の失敗が発現した後、ユーザーが**[OK]**をクリックすると、リスト内の以下のライセンスサーバに要求が自動的にフェールオーバーされます。ユーザによる操作はそれ以上必要ありません。
- **リモート管理サーバのフェールオーバー**は、ライセンスサーバのフェールオーバーよりも透過性が低くなります。前述のように、NEワークグループに含まれる全てのワークステーションは、同一のセットアップを共有します。別のサーバに移動する場合、クライアントは初期の同期操作を再度実行し、新しいサーバと同期させる必要があります。

従って、新しいサーバを起動すると、これは、初期同期の実行のためにに全てを再起動する必要がある全ての加入したクライアントを完全に認識した上で行う必要があります。

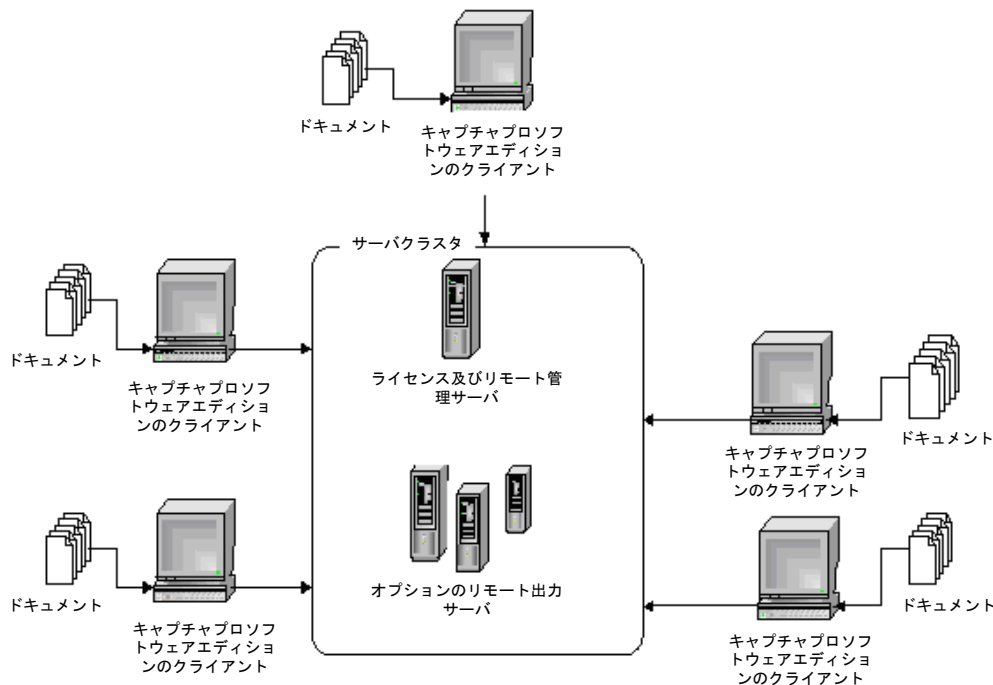
1 管理

内容

ネットワークエディションの概要	1-2
システム要件	1-3
インストールと設定	1-3
ステップ 1、配置計画	1-3
ステップ 2、サーバのセットアップ	1-3
ステップ 3、ライセンスサーバとリモート管理サーバソフト ウェアのインストール	1-4
ステップ 4、ネットワークエディションライセンスの確認	1-5
ステップ 5 (オプション)、CA 認定 SSL 証明書を使用した IIS サイトバインディングの設定	1-5
ステップ 6 (オプション)、HTTP から HTTPS へのサーバの アップグレード	1-6
ステップ 7、ライセンスマネージャのインストール	1-6
ステップ 8、サーバマップ設定	1-6
ステップ 9、オプション：出力サーバのインストール	1-7
ステップ 10、オプション：SQL Server データベースの使用	1-9
ステップ 11、ネットワークエディションクライアントソフト ウェアのインストール	1-10
ステップ 12、ネットワークエディションクライアントの最初の起動...	1-12
フェイルオーバーのセットアップ	1-13

この章では、ネットワークエディションワークグループをセットアップするために必要なインストールと構成のステップを提供します。

ネットワークエディシ ョンの概要



コダック社のキャプチャプロソフトウェアネットワークエディションにより、キャプチャプロワークステーションがウェブベースのインターネットインフォメーションサービス (IIS) ネットワークエディションサーバと相互作用し、

- 接続されたワークステーション間でセットアップを自動的に共有でき（リモート管理）、
- コンピュータ集約型の出力ジョブを出力サーバにオフロードでき（リモート出力）、
- ウェブベースの「ダッシュボード」を介して、ライセンス、バッチ監視及びその他の操作の集中管理を提供します（CP ダッシュボード）。

ネットワークエディションをサポートするサーバは以下の2種類があります。

- キャプチャプロソフトウェアサーバ（メインサーバ）これは、リモート管理（RA）、ライセンスサービス（LS）、キャプチャプロダッシュボード及びリモートバッチ管理機能をサポートします。

これらのサーバの1つは、各キャプチャプロネットワークエディションのワークステーションのワークグループに必要です。

サーバのインストールに続いて、顧客固有のライセンスファイルがライセンスサーバにロードされ、全てのリモート出力サーバとキャプチャプロソフトウェアクライアントが有効になります。

- キャプチャプロソフトウェア出力サーバこのサーバは、リモート出力（RO）機能をサポートします。このパッケージは、1つ以上のROサーバを含むネットワークエディション設定のオプション部分です。

サーバマップ (xml ファイル) は、ワークステーションとサーバとの間の通信を可能にするパス情報を提供します。このサーバマップは、特別なサーバマップマネージャユーティリティを使用してキャプチャプロソフトウェアをインストールする前に作成されます。

ネットワークエディションサーバは、ファイアウォールに適したプロトコル (HTTP ポート 80 を介して SOAP メッセージを送信するウェブサービス) を使用します。ネットワークエディションサーバが提供するウェブページを閲覧できるワークステーションは、ネットワークエディションサービスをサポートします。大部分のファイアウォールはウェブページの閲覧を許可するように事前設定されるため、クライアントワークステーションで特別なファイアウォール設定は必要ありません。

ネットワークエディションサーバ PC は、HTTP 通信用にポート 80 を許可するように設定する必要があります。

システム要件

インストールと構成を行う前、以下のリンクにあるコダックアラリスのウェブサイトの製品仕様に概説されるように、システムがシステム要件を満たすことを確認してください。

リンク仕様

<https://www.alarisworld.com/en-us/solutions/software/document-scanning-software/capture-pro-software#Specifications>

インストールと設定

以下のステップは、キャプチャプロソフトウェアネットワークエディションのインストールと設定を正常にセットアップするために必要である。

ステップ 1、配置計画

設定に含まれる全てのサーバを識別します。この情報は、サーバマップを作成する時にステップ 5 で使用されます。

サーバは以下によって識別され、

- **サーバ名** : サーバを識別するためにサーバマップで使用されたユーザフレンドリーな名。これは実際のコンピュータ名であり得ます。この名前は、特定のサーバをその機能及びホスト名に関連付けるために使用された単なる「ラベル」です。
- **ホスト名** : ネットワーク接続を確立するために URL で使用されたコンピュータ名又は IP アドレス。
- **機能 (サーバタイプ)** : ライセンスサーバとリモート管理サーバ (メインサーバ) 又はリモート出力サーバ。

注記 : リモート出力のために、クライアントとサーバとの間のギガビットイーサネット接続をお勧めし、全てのサービスに 100MB の接続が必要です。

重点 : ネットワークエディションのサーバはインターネットに開示しない。

ステップ 2、サーバのセットアップ

サーバのセットアップは顧客の責任です。オペレーティングシステム固有のオプションについては、付録 A を参照してください。

ステップ 3、ライセンスサーバとリモート管理サーバソフトウェアのインストール

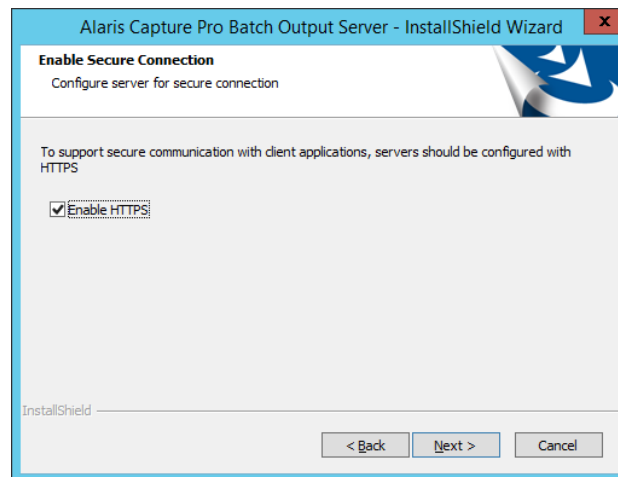
キャプチャ プロ サーバ ソフトウェアは、<http://www.kodakalaris.com/go/CaptureProNEDownload> のウェブサイトからダウンロードできます。

1. インストール開始：
 - ウェブサイトから CapProNEServerSW_x_x.exe をダウンロード、記憶、実行し、又は
2. 言語画面で、希望言語を選択し、[次へ]をクリックします。
3. ソフトウェアライセンス契約の条項を読み、確認した後、[同意します]をクリックします。
4. [USB ハードウェアキーを使用しません]を選択し、[次へ]をクリックします。

注記： オプションの USB ハードウェアキーを購入した場合、[USB ハードウェアキーを挿入しました]を選択し、[次へ]をクリックします。

[ソフトウェアのシリアル番号]画面が表示されます。

5. ソフトウェアのシリアル番号を入力し、[次へ]をクリックします。[製品登録]画面が表示されます。
6. 受信したイセンス通知メールに示すように、登録 ID を入力します。登録 ID がない場合、[今すぐ登録]を選択して登録を完了します。[次へ]をクリックします。アラリスライセンスサーバからライセンスを取得した後、[ライセンスの取得]画面が表示されます。
7. 安全なクライアント / サーバ接続を有効にするために、[HTTPS を有効にします]チェックボックスを選択します。

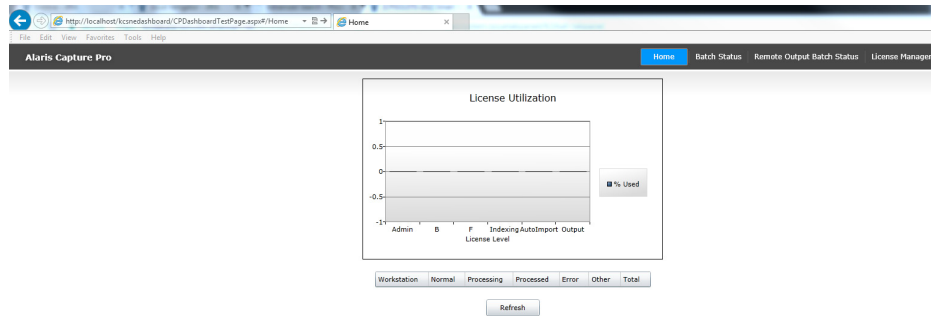


注記： 既存のソフトウェアをアップグレードする場合、現在の接続モードが保持されます。HTTPS 接続を有効にするために、付録 A の 14 ページの「オプション：CA 認定 SSL 証明書を使用した IISHTTPS サイトバインディングの設定」を参照してください。

8. [次へ]をクリックします。インストールが開始されます。
9. 完了画面で、[完了]をクリックします。

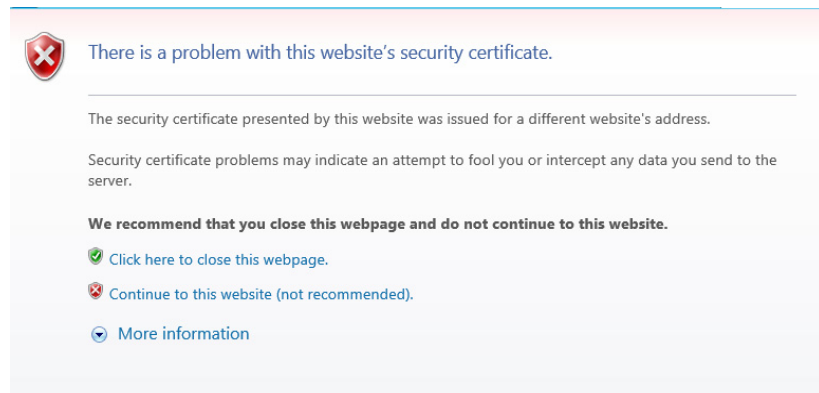
ステップ 4、ネットワークエディションライセンスの確認

1. ライセンスサーバで管理者アカウントに直接ログインします。
2. ウェブブラウザを起動し、以下のように入力し、
<http://localhost/KCSNEDashboard/CPDashboardTestPage.aspx#/Home>、
又は、HTTPS が有効になる場合、以下のように入力し、
<https://localhost/KCSNEDashboard/CPDashboardTestPage.aspx#/Home>。
キャプチャプロダッシュボードが表示されます。



3. [ライセンス管理] を選択し、各グループで利用可能なライセンスの数を確認します。

注記：キャプチャプロネットワークエディションインストーラには、デフォルトでインストールされた自己署名証明書が付属します。ウェブブラウザからダッシュボードに移動すると、エラーが表示されます。エラーを回避して内容を表示するために、[このウェブサイトに進みます] を選択します（お勧めしません）。



ステップ 5（オプション）、CA 認定 SSL 証明書を使用した IIS サイトバインディングの設定

CA 認定 SSL 証明書を使用して IIS を設定するオプションを有し、付録 A の 14 ページの「オプション：CA 認定 SSL 証明書を使用した IISHTTPS サイトバインディングの設定」を参照してください。

このオプションを選択する場合、ライセンスサーバとリモート管理サーバソフトウェア及びリモート出力サーバソフトウェアをインストールした後、IIS サイトバインディングにポート 443 の「https」タイプバインディングが 1 つしかないことを確認します（他の SSL 証明書が全て既にインストールされた場合）。

ライセンスサーバとリモート管理サーバソフトウェア及び出力サーバソフトウェアが異なるサーバマシンにインストールされる場合、CA 認定 SSL 証明書を備えた IIS 設定を両方のマシンで実行する必要があります。後ほど（ライセンスサーバとリモート管理サーバソフトウェア及び出力サーバソフトウェアをインストールした後）、CA 認定 SSL 証明書が IIS に追加される場合、コダクアラリスは以下をお勧めします。

- サーバとクライアントとの両方でソフトウェアをアンインストールします。
- 新たに追加された SSL のホスト名を備えた KCServerMap.xml ファイルを再生成し、サーバとクライアントとの両方でソフトウェアを再インストールします。

ステップ 6 (オプション)、HTTPからHTTPSへのサーバのアップグレード

インストールされた位置から **KCSNetEditionHTTPConfigTool** を実行することにより、ライセンスサーバとリモート管理サーバソフトウェア及びリモート出力サーバソフトウェアを HTTP から HTTPS にアップグレードするオプションを有します（デフォルトの位置は「C:\Program Files (x86)\Kodak Alaris\Kodak Alaris\Tools\HTTP Configuration Tool」です）。

ツールの **KCSNetEditionHTTPConfigTool** を実行する前、ライセンスサーバとリモート管理サーバソフトウェア及びリモート出力サーバソフトウェアとの両方が同じバージョンにアップグレードされることを確認します。CP ダッシュボードがいずれかのブラウザで開いている場合、HTTPS に設定する前にブラウザを閉じます。

リモート出力サーバソフトウェアが別のサーバにインストールされる場合、ライセンスサーバとリモート管理サーバから **KCSNetEditionHTTPConfigTool** をリモート出力サーバにコピーし、プログラムを実行します。

ライセンスサーバとリモート管理サーバ又はリモート出力サーバのいずれかが HTTPS に設定される場合、他のサーバも HTTPS に設定される必要があります。

注記： HTTPS 接続をサポートするために、既存のキャプチャプロ NE クライアントソフトウェアを同じバージョンのライセンスサーバとリモート管理サーバソフトウェアにアップグレードする必要があります。

ステップ 7、ライセンスマネージャのインストール

ライセンスマネージャは、キャプチャプロソフトウェアネットワークエディションライセンスを維持するために使用されます。ライセンスマネージャは、アラリスライセンスサーバと通信し、既存のライセンスを更新したり、既存のライセンスを解放したり、失われたライセンスを置き換えたりします。

<http://www.kodakalaris.com/go/CaptureProNEDownload> のウェブサイトからライセンスマネージャをダウンロードできます。KCSPLM_x_x.exe をダウンロード、記憶、実行します。

ステップ 8、サーバマップ設定

サーバマップは、**KCServerMap.xml** という名前の XML 形式のファイルです。サーバマップは、ライセンスサーバ、リモート管理サーバ及びオプションのリモート出力サーバの名前と URL を含みます。

サーバマップは、キャプチャプロソフトウェア ネットワークエディションディストリビューションに含まれるサーバマップマネージャツールを使用して作成されます。

ツールを実行する前、以下を知っておく必要があります。

- **サーバ名**：サーバのユーザフレンドリーなラベル。
- **ホスト名**：サーバのマシン名又は IP アドレス。
- **機能**：そのサーバの機能、**メイン**（ライセンス及びリモート管理）又は**出力**（オプションのリモート出力）。

この情報は、後のステップで使用されたサーバマップを生成するためのサーバマップマネージャツールへの入力として使用されます。

付録Cのステップ1(配置計画)で記入したワークシートを参照してください。

サーバマップマネージャツールの使用については、付録B「サーバマップ」を参照してください。

ステップ 9、オプション： 出力サーバのインストール

出力サーバは、自己設定ではありません。多くのジョブセットアップは、様々なプラグインのインストール、特定のパスとディレクトリの存在、又はその他のオプションで手動設定されたパラメータに依存します。サーバで処理させるジョブミックスをサポートするために必要な全てのサポートソフトウェア及びその他の設定の準備が整うように、出力サーバを設定するのは、システム管理者の責任です。

重点：

- **現在、リモート出力サーバをキャプチャプロサーバソフトウェアと同じサーバにインストールできません。ただし、システムの全体的なパフォーマンスのために、キャプチャプロサーバとリモート出力サーバは別々のサーバに分けることをお勧めします。**
- **リモート出力サーバがキャプチャプロサーバソフトウェアと同じサーバにインストールされる場合、リモート出力サーバをアンインストールせず、又はキャプチャプロサーバソフトウェアは機能しなくなります。キャプチャプロサーバを正しく機能させるために、キャプチャプロサーバソフトウェアをアンインストールして再インストールする必要があります。**

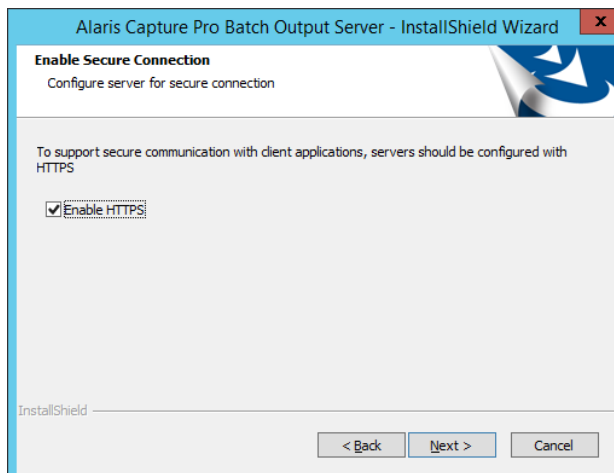
キャプチャプロ出力サーバソフトウェアのインストール中、以前に作成した KCSServerMap.xml ファイルは、ファイルシステムを介して利用可能である必要があります。

出力サーバモジュールソフトウェアは、<http://www.kodakalaris.com/go/CaptureProNEDownload> のウェブサイトからダウンロードでき、又はオプションのキャプチャプロサーバソフトウェアディスクからインストールできます。キャプチャプロサーバソフトウェアディスク。

1. インストール開始：

- ウェブサイトから CapProNEOSMSW_x_x.exe をダウンロード、記憶、実行します。
2. 言語画面で、希望言語を選択し、[次へ] をクリックします。
 3. ソフトウェアライセンス契約の条項を読み、確認した後、[同意します] をクリックし、[次へ] をクリックします。[閲覧] 画面が表示されます。
 4. [閲覧] をクリックし、付録 B を使用して作成したサーバマップファイル (KCSServerMap.xml) を見つけ、[開きます] をクリックし、[次へ] をクリックします。

5. 安全なクライアント / サーバ接続を有効にするために、[HTTPS を有効に
します] チェックボックスを選択します。



注記： HTTPS を有効にするオプションでライセンスサーバとリモート管理サーバソフトウェアがインストールされる場合、設定が同一である必要があるため、リモート出力サーバソフトウェアの [HTTPS を有効にする] オプションをチェックします。

注記： 既存のソフトウェアをアップグレードする場合、現在の接続モードが保持されます。HTTPS 接続を有効にするために、付録 A の 14 ページの「オプション：CA 認定 SSL 証明書を使用した IISHTTPS サイトバインディングの設定」を参照してください。

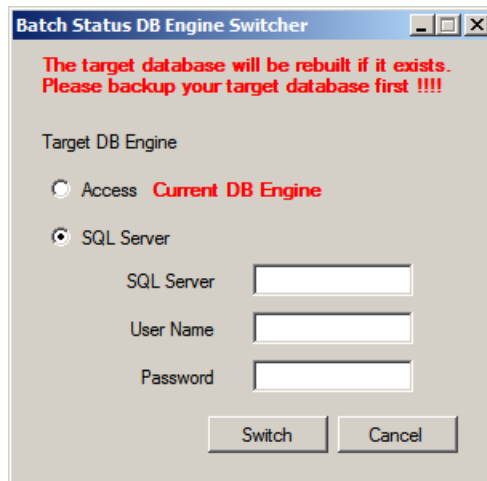
6. [次へ] をクリックします。[セットアップのタイプ] 画面が表示されます。
7. [標準] を選択し、[次へ] をクリックします。
8. [情報] 画面で [次へ] をクリックします。
9. [準備] 画面で [インストールします] をクリックします。
10. [正常にインストールされました] 画面で [完了] をクリックします。

注記： 出力サーバは、インストールが完了するとすぐにライセンス / 管理サーバとの接続を開始します。

ヒント： 外部共有に出力する場合、ジョブセットアップで資格情報を使用すると、外部共有へのアクセスが提供されます。アラリス社のキャプチャプロソフトウェアの管理者案内の第 2 章にある「資格情報」([ジョブセットアップの出力] タブ) というタイトルのセクションを参照してください。

ステップ 10、オプション： SQL Server データベース の使用

バッチ監視に使用されたバッチ情報は、デフォルトの Microsoft Access データベースに記憶されます。多くのバッチが監視される状況では、Microsoft SQL Server データベースを使用すると、パフォーマンスを向上させる。キャプチャプロソフトウェアは、デフォルトの Microsoft Access データベースを含みます。キャプチャプロリモート管理サーバで使用する独自の Microsoft SQL Server データベースを提供するオプションを有します。



バッチステータス DB エンジンスイッチャーユーティリティは、新しい Access 又は SQL Server データベースを作成し、キャプチャプロソフトウェアサーバで使用するためにデータベースを設定するために使用されます。

注記： Access と SQL Server 又は SQL Server と Access を切り替えるたびに、新しいデータベースが作成されます。既存のデータは失われます。

バッチステータス DB エンジンスイッチャーは、<http://www.kodakalaris.com/go/CaptureProNEDownload> のウェブサイトからダウンロードでき、又はオプションのキャプチャプロサーバソフトウェアディスクからインストールできます。

1. 上記ステップ 2～6 で概説するように、キャプチャプロサーバソフトウェアのインストールを完了します。
2. これが新規インストールでない場合、保持したいデータについては、既存のデータベースから全てのデータをバックアップします。
3. インストールの開始：
 - ウェブサイトから BatchMonDBTool.exe をダウンロード、記憶、実行します。
4. 使用したいターゲット DB エンジンを選択します。
 - SQL Server を選択すると、SQL Server のホスト名とデータベースへのアクセスに必要なユーザ名とパスワードを入力します。
5. [切り替え] ボタンを選択し、選択したデータベースを作成、設定します。バッチステータスという名前のデータベースを作成します。

ステップ 11、ネットワーク エディションクライアント ソフトウェアのイン ストール

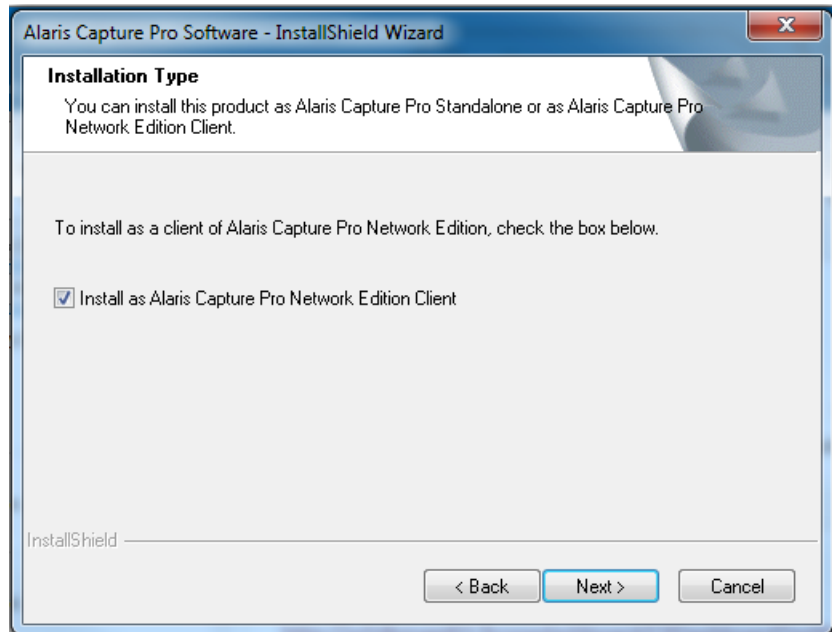
キャプチャソフトウェアネットワークエディションクライアントのインストール中、以前に作成した KCSServerMap.xml ファイルは、ファイルシステムを介して利用可能である必要があります。インストーラは、KCSServerMap.xml ファイルを閲覧して選択するように要求するプロンプトを表示します。これは、共有又はマップされたフォルダ、可搬型媒体装置、又は任意の便利なメカニズムによって実現できます。

1. インストール開始：
 - <http://www.kodakalaris.com/go/CaptureProNEDownload> のウェブサイトから CapProNEClientSW_x_x.exe をダウンロード、記憶、実行します。
2. メニューから言語を選択し、[キャプチャソフトウェアをインストールします]を選択します。[ライセンス契約]画面が表示されます。
3. ライセンス契約を読んだ後、[同意します]をクリックし、[次へ]をクリックします。[ハードウェアライセンスキー]画面が表示されます。

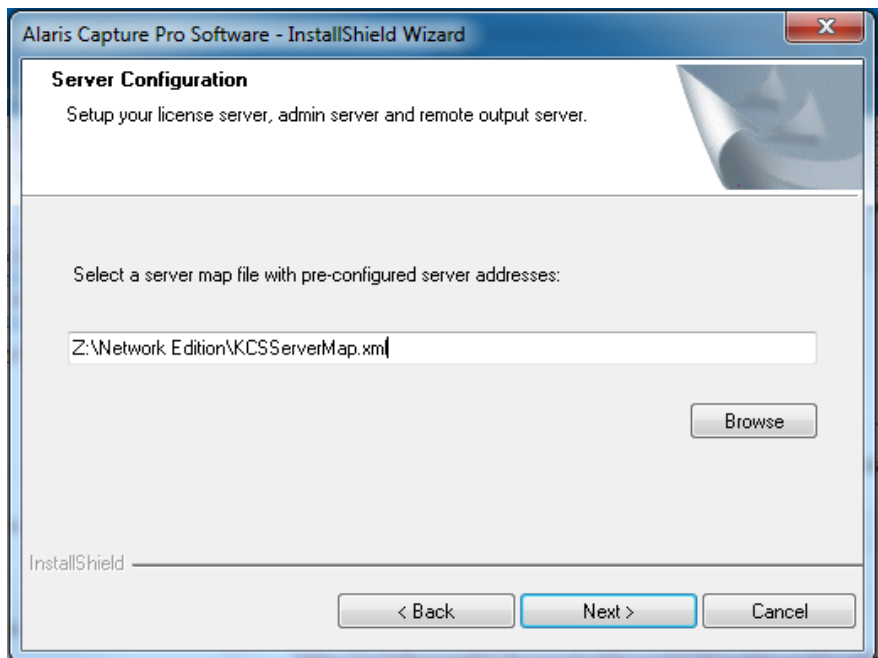


- オプションのハードウェアキーを使用する場合、ハードウェアキーがプラグインされることをチェックし、[USB ハードウェアキーを挿入しました] を選択し、[次へ] をクリックします。

[インストールのタイプ] 画面が表示されます。



- [キャプチャプロネットワークエディションクライアントとしてインストールします] をチェックし、[次へ] をクリックします。[サーバ設定] 画面が表示されます。



- [閲覧します] をクリックします。[ファイルの選択] ダイアログボックスが表示されます。
- KCSServerMap.xml ファイルを見つけ、[開きます] をクリックします。
- [サーバ設定] 画面で [次へ] をクリックします。
- [セットアップタイプ] 画面で [標準] を選択し、[次へ] をクリックします。[情報] 画面が表示されます。

10. [次へ] をクリックします。[プログラムのインストール準備ができました] 画面が表示されます。
11. [インストールします] をクリックします。ソフトウェアのインストール中は、プログレスバーが表示されます。ウィンドウが閉じた後、[インストールが完了しました] 画面が表示されるまでに約 25 秒間の遅延があります。
12. [完了] を選択します。

クライアントのインストールが完了し、キャプチャプロネットワークエディションクライアントを起動できます。

ステップ 12、ネットワークエディションクライアントの最初の起動

リモート管理では、スキャナー固有であるため、ページ設定を除き、各クライアントに同一の設定ファイルのセットが要求されます。各クライアントが初めて起動すると、サーバと「同期」します。

*同期*とは、リモート管理サーバとクライアントのセットアップを同一にする最初のプロセスを指します。これは、キャプチャソフトウェアがクライアントで起動するたびに発生します。クライアントが最初の同期を実行すると、定期的な自動更新により、各クライアントとサーバで同じセットアップが維持されます。

リモート管理サーバにはセットアップファイルの最初のセットがプリロードされないため、インストールした後にクライアントが最初に起動すると、セットアップのコレクション全体がサーバにコピーされます。後続のクライアントは、起動時、同じ名前のセットアップのローカルコピーを、サーバ上のセットアップによって上書きします。(クライアント上の一意的な名前前のセットアップは、常にサーバにコピーされ、全てのクライアントに自動的にダウンロードされます。)

重点：インストール後の最初の同期では、「シード」クライアントとして機能するクライアントを識別することが望ましく、このクライアントからのセットアップは他のクライアントにコピーされ、同じ名前前のセットアップが上書きされます。最初の起動に進む前に各クライアントをバックアップし、又は、アップグレードのインストール中など、同じ名前前で設定が異なるセットアップが誤って上書きされないようにするために、他のステップを実行することをお勧めします。

1. NE ワークグループの「シード」として機能するクライアントを選択します。このワークステーションからのセットアップはサーバに上向きに転送され、次にグループ内の他のワークステーションに下向きに転送されます。
2. クライアントを起動します。同期が進行中であることを示すダイアログボックスが表示されます。
3. 最初のクライアントの同期が完了した後、他のクライアントを任意の順序で起動できます。

注記：

- 後の起動時、各クライアントは最初の同期が発生したことを検出し、この「シード」クライアントプロセスは必要ありません。
- CP ダッシュボードで情報を検査する際の混乱を避けるために、各クライアントには一意のワークステーション ID と名前を付ける必要があります。

フェイルオーバーの セットアップ

フェイルオーバーは、半自動操作であり、事前設定されたバックアップサーバをオフラインで待機させることにより、管理者がサーバの停止から回復しやすくするように意図され、個々のクライアントのサーバマップを更新しなくても、簡単にオンラインにしてクライアントが利用できます。

フェイルオーバーのために、サーバーをセットアップします。

1. サーバマップマネージャツールを使用し、2つのライセンス / 管理（メイン）サーバをサーバマップに追加します。そのサーバマップを全てのクライアントとリモート出力サーバにインストールします。
2. サーバのインストール手順の指示に従って、キャプチャソフトウェアをプライマリサーバにインストールします。
3. プライマリサーバにおけるライセンスマネージャを使用し、[ライセンス解放] タブで [ライセンス解放] を選択してライセンスを解放します。
4. サーバのインストール手順と、プライマリサーバで使用されるものと同じソフトウェアシリアル番号とを使用し、キャプチャソフトウェアをセカンダリサーバにインストールします。
5. セカンダリサーバにおけるライセンスマネージャを使用し、[ライセンス解放] タブで [ライセンス解放] を選択してライセンスを解放します。
6. プライマリサーバでライセンスマネージャを使用し、[ライセンス取得] を選択してライセンスを取得します。

プライマリサーバに障害が発生する場合、

- セカンダリサーバにおけるライセンスマネージャを使用し、[ライセンス置換] タブで [失われたライセンス置換] を選択し、失われたライセンスを置換します。置換ライセンスを受信した後、アラリスサービスに連絡し、「置換ライセンスの数」のリセットを要求します。

注記： ライセンスを取得又は置換した後、IIS を再起動する必要があります。

2 CP ダッシュボードの使用

内容

CP ダッシュボードの実行	2-1
ホーム	2-3
バッチステータス	2-3
セットアップツール	2-5
セットアップツールのブラウザ設定	2-6
インターネットエクスプローラ	2-6
リモート出力バッチステータス	2-8
ライセンス管理	2-9
バージョン情報	2-9

キャプチャプロダッシュボード（CP ダッシュボード）は、キャプチャプロソフトウェアサーバにアクセスできる任意のPCから実行できるブラウザベースのアプリケーションです。

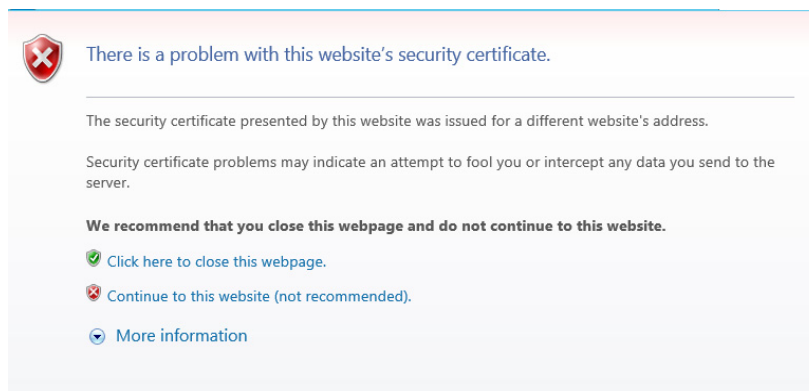
CP ダッシュボードは、ASP.NET Core を使用して実装され、Google Chrome、Microsoft Edge、Internet Explorer などのブラウザを使用して起動できます。

一部の CP ダッシュボードの機能（ライセンスのロードなど）は、アプリケーションがサーバから直接（即ち、ローカルホストから）実行される場合にのみ使用できます。大部分の機能は全てのクライアントから利用できます。

CP ダッシュボードの実行

CP ダッシュボードを実行するために、以下の URL を入力し、
<http://hostaddress/KCSNEDashboard/CPDashboardTestPage.aspx#/Home>、
又は、HTTPS が有効になる場合、以下のように入力し、
<https://hostaddress/KCSNEDashboard/CPDashboardTestPage.aspx#/Home>、
hostaddress は、CA 認定 SSL 証明書に関連付けられたサーバ名又はドメインホスト名です。

注記：キャプチャプロネットワークエディションインストーラには、デフォルトでインストールされた自己署名証明書が付属します。ウェブブラウザからダッシュボードに移動すると、エラーが表示されます。エラーを回避して内容を表示するために、[このウェブサイトに進みます] を選択します（お勧めしません）。



全てのCPダッシュボードパネルは、共通のナビゲーションバーを共有します。



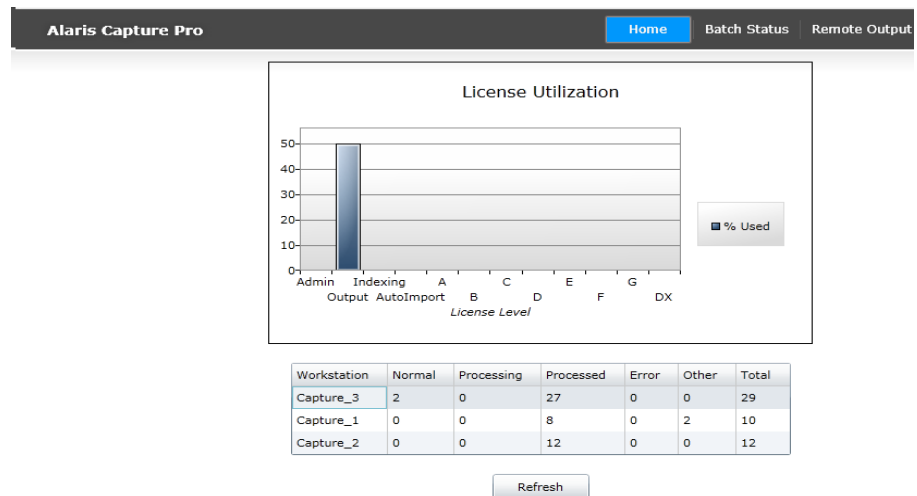
ナビゲーションバーは、以下のオプションを提供します。

- **ホーム**：ライセンス使用率及びバッチ数などの高レベルのシステム操作を伝えるためのグラフ及びその他のメータを含みます。
- **バッチステータス**：システム内のバッチに関する情報を提供し、オペレータがフィルタ処理されたサブセットの状態を選択的に閲覧するようにします。
- **リモート出力ステータス**：リモートバッチ出力サーバによって現在処理されているバッチに関する情報を提供します。
- **ライセンス管理**：ライセンスファイルをシステムにロードするためのメカニズムを提供し、ライセンス使用の詳細を表示します。
- **バージョン情報**：CPダッシュボードに関する一般的な情報及びCPダッシュボード言語選択のローカリゼーションインターフェイスを提供します。

パネル上の情報は、1つ以上の（シフト・クリック）列ヘッダを選択することによって並べ替えることができます。この並べ替えは、表が更新されるまで有効になり、その時点で元の順序に戻り、選択した行項目は全て表の第1エントリに戻ります。

ホーム

ホームパネルは、以下を含みます。



ライセンス使用率グラフ: 現在ロードされているライセンスファイルに含まれた各ライセンスレベルの使用率を表示します。現在の使用状況に基づいて自動的に更新及び拡大縮小されます。

バッチ数のチャート: 各ワークステーションの様々な状態の現在のバッチ数を表示します。それらは、**正常**、**処理済み**、**処理中**、**エラー**及び**その他**です。**その他**は、その他の遷移状態と**削除済み**を表します。このグラフは自動的に更新されません。

グラフを更新するために、[更新します]をクリックします。

バッチステータス

CP ダッシュボードの [バッチステータス] パネルを使用し、システム内のバッチに関する情報を表示できます。システム内の全てのバッチは、処理中のバッチのデータベースを維持するバッチ監視プログラムサービスに報告されます。作成時、バッチはデータベースに追加され、ステータスが変更されるたびに、バッチの履歴ファイルに新しいエントリが追加され、詳細なバッチ情報が更新されます。

各バッチは主に、それを作成したワークステーション（単に「ワークステーション」と呼ばれます）、ジョブ名及びバッチ名によって識別されます。この基本識別子は、他のワークステーションがインデックス作成操作を実行する場合、又はリモート出力のために別のサーバに移動する場合、インデックス作成又はリモート出力ステップのためにワークステーションからワークステーションに移動する時にバッチに保持されます。

バッチステータス操作

[バッチステータス]パネルに最初に入ると、[フィルタ]ダイアログボックスが表示されます。ワークステーション、ジョブ名、ユーザ又はステータスの自動入力ボックスにフィルタ基準を入力できます。自動入力ボックスには、入力した文字と現在のデータベースの内容に基づいて可能な選択を示すドロップダウンメニューが表示されます。フィルタは、4つの可能な選択基準の任意の組み合わせを含むことができます。特定の期間内に選択されたバッチのみを表示するために、開始日と終了日を指定できます。表示するための最大ステータスを使用し、表に示すバッチステータスエントリの最大数を変更できます。表示するための最大ステータスの数までの全てのバッチ情報を表示するために、フィルタ基準を入力しません。

The screenshot shows the 'Filters' dialog box with the following fields: Workstation, Job, User, Status, Maximum number of batch statuses (set to 350), Start Date, and End Date. All fields are empty except for the 'Maximum number of batch statuses' which is set to 350. There is a 'Select' button at the bottom.

空

The screenshot shows the 'Filters' dialog box with the following fields: Workstation (C), Job (Capture_1), User, Status, Maximum number of batch statuses (set to 350), Start date, and End date. The 'Workstation' and 'Job' fields contain the text 'C' and 'Capture_1' respectively. There is a 'Select' button at the bottom.

「c」の入力

注記：最初に表示した後、ダイアログボックスは[キャンセル]ボタンも含まれます。

[選択]をクリックすると、バッチ監視プログラムサービスは一致する全てのバッチのバッチ情報を返します。

The screenshot shows the 'Alaris Capture Pro' interface with the 'Batch Status' tab selected. The main area displays a table of batch information. Below the table is a 'Selected Batch History' section. On the right, there is a 'Selected Batch Detail' panel showing information for a specific batch.

Workstation	Job	Batch	Creation Date	Status	Error
Capture_1	Ready to Scan -	Batch099	2013.11.21 07:00:54	PROCESSED	
Capture_1	Ready to Scan -	Batch098	2013.11.21 07:00:42	PROCESSED	
Capture_1	Ready to Scan -	Batch097	2013.11.21 06:58:59	PROCESSED	
Capture_1	Ready to Scan -	Batch096	2013.11.21 06:58:39	PROCESSED	
Capture_1	Ready to Scan -	Batch095	2013.11.21 06:58:13	PROCESSED	
Capture_1	Ready to Scan -	Batch094	2013.11.21 06:57:50	PROCESSED	
Capture_1	Ready to Scan -	Batch093	2013.11.21 06:56:56	PROCESSED	
Capture_1	Ready to Scan -	Batch092	2013.11.20 17:04:11	DELETED	
Capture_1	Ready to Scan -	Batch091	2013.11.20 17:04:05	DELETED	
Capture_1	Ready to Scan -	Batch090	2013.11.20 17:03:59	DELETED	

Computer Name	Event Time	Status	Error
KM-DI-W5962DH1	11/21/2013 7:01:03 AM	PROCESSING	
KM-DI-W5962DH1	11/21/2013 7:01:03 AM	NORMAL	
KM-DI-W5962DH1	11/21/2013 7:01:06 AM	UPLOADING	
EASTMAN-SOIOLGA	11/21/2013 7:01:08 AM	PROCESSING	
EASTMAN-SOIOLGA	11/21/2013 7:01:09 AM	PROCESSED	

Selected Batch Detail

Computer Name: EASTMAN-SOIOLGA
Job: Ready to Scan - to RD
Batch: Batch099
Status: PROCESSED
Error:
Creating Workstation: Capture_1
Creating User: sysadmin
Creation Date: 2013.11.21 07:00:54
Modifying Workstation: Capture_1
Modifying User: sysadmin
Modification Date: 2013.11.21 07:01:03
Output Workstation: Capture_1
Remote Output Server: Local Output Server
Output User: sysadmin
Location: C:\ScanPro\Ready to Scan - to RD\Batch099
Starting Doc ID: 1
First Doc ID: 1
Last Doc ID: 2
Size Of Images: 376926
Document Count: 2
Page Count: 4
Image Count: 8

バッチの概要：フィルタ基準に一致する、現在、ネットワークエディションワークグループにあるバッチの概要情報を含みます（上記の例では、フィルタ基準は指定されません）。

[バッチの概要] パネルでバッチ（例えば、バッチ# 023）を選択すると、バッチ情報の詳細が [選択されたバッチの詳細] パネルに表示され、バッチの履歴が [選択されたバッチ履歴] パネルに表示されます。

選択されたバッチの詳細：最新バッチ情報を含みます。バッチのステータスが変更されるたびに、新しい情報がデータベース内の以前の詳細を上書きします。

選択されたバッチ履歴：報告されたバッチステータスの変更ごとに 1 つのエントリを含みます。バッチが再処理され、又はリモート出力サーバに送信される場合、同じステータスが数回表示されます。

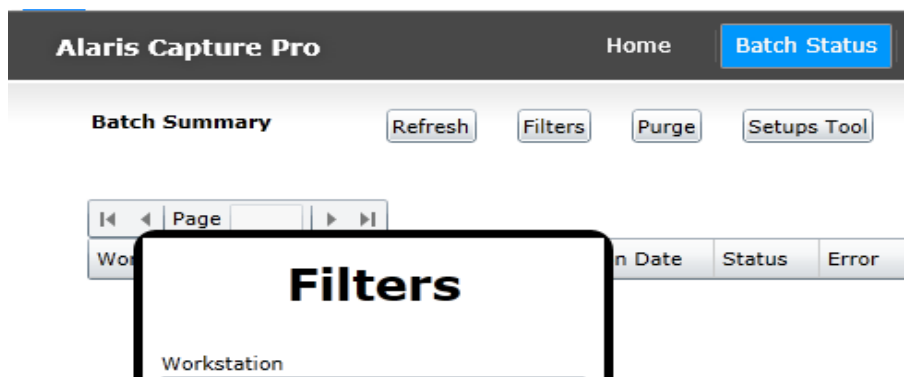
更新：最後に選択されたフィルタセットを使用してデータセットを再表示します。

フィルタ：[フィルタ] ダイアログボックスを表示し、新しいフィルタ基準の入力と新しいバッチ情報の選択が可能になります。

ページ：このボタンは、CP ダッシュボードが「ローカルホスト」で実行される場合にのみ表示されます。それは、削除されたバッチのデータベースを定期的にページするために使用されます。この操作を実行すると、削除されたバッチが概要表と履歴表から削除され、関連するカウンタもバッチ統計表から削除されます。

セットアップツール

セットアップツールは、ジョブ、ページ、ユーザ、グループ、ショートカット、スキャナー及び自動インポートのセットアップを削除又は名前変更するための便利な方法です。

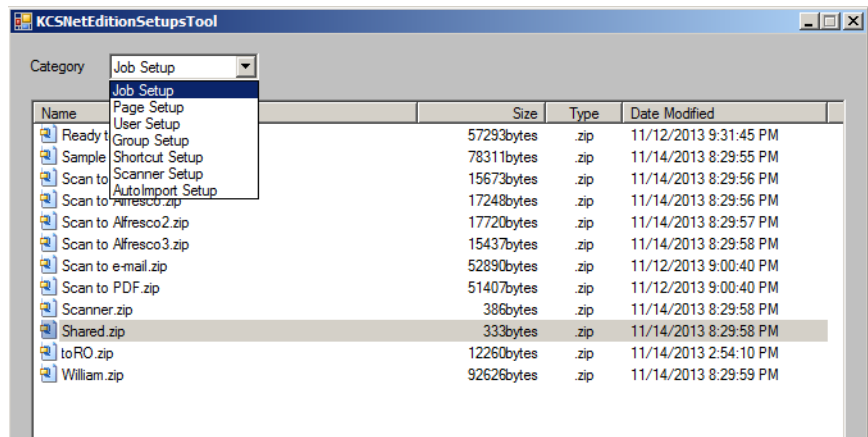


1. [バッチステータス] ページの [セットアップツール] ボタンをクリックします。[セットアップツール] が表示されます。

注記：セキュリティエラーメッセージが表示された場合、ブラウザのセキュリティ設定はこのオプションを許可しません。詳細については、ネットワークエディションシステム案内を参照し、ブラウザのセキュリティ設定を変更し、又はツールを手動で起動する必要があります。詳細については、以下のセクションを参照してください。

2. 削除又は名前変更したいセットアップファイルのタイプに適したカテゴリを選択します。
3. リスト内の所望のセットアップファイルを右クリックします。

4. [名前変更]又は[削除]を選択します。

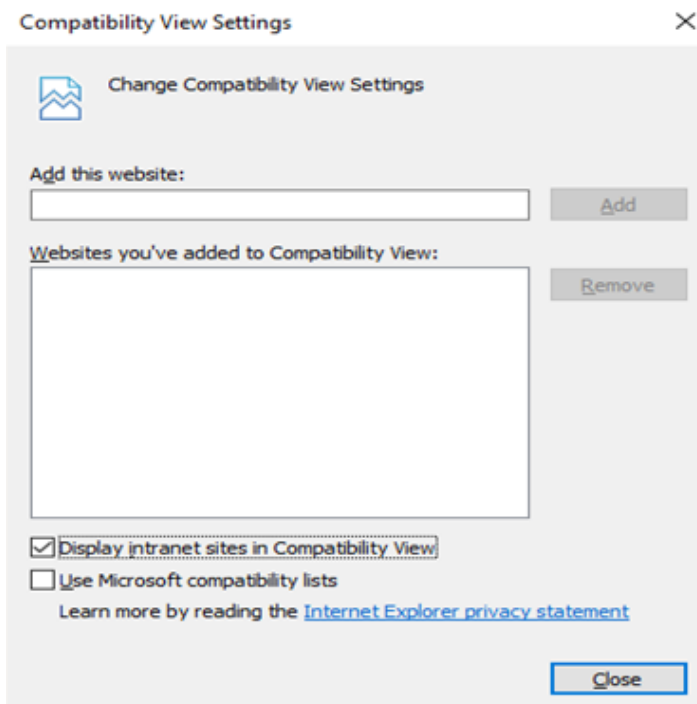


セットアップツールのブラウザ設定

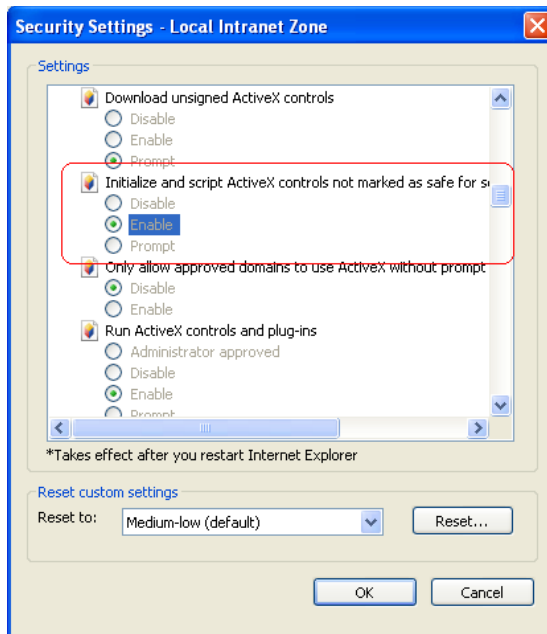
ツールセットアップユーティリティを使用するために、ブラウザのローカルインターネットセキュリティ設定を調整する必要があります。

インターネットエクスプローラ

1. ウィンドウズインターネットエクスプローラを起動します。
2. [ツール]を選択してから、[互換表示設定]を選択します。
3. [互換表示にイントラネットサイトを表示します]オプションをチェックします。



4. ActiveX コントロールとプラグインのセクションで、[安全]とマークされない ActiveX コントロールの初期化とスクリプトの設定を [有効] 又は [プロンプト] に変更します。



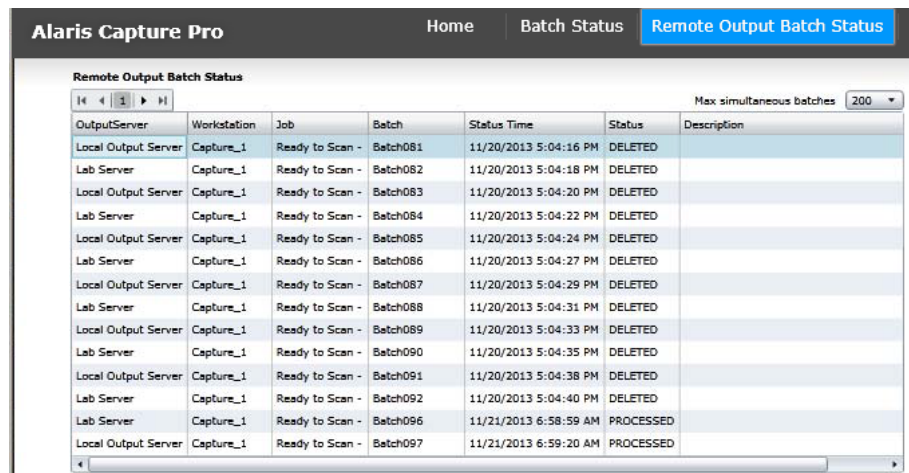
注記 : ActiveX をサポートしないブラウザは、[セットアップツール] ボタンを使用してツールを起動することはできません。ツールは、以下の位置にある実行可能なファイルを実行することによって手動で起動できます。
\\inetpub\wwwroot\KCSNEAdminService\bin\KCSNetEditionSetup sTool.exe

リモート出力バッチステータス

オプションのリモート出力サーバを使用してクライアントからバッチを処理及び出力すると、[リモート出力バッチステータス] パネルを使用し、これらのバッチのステータスを表示できます。この表の主な目的は、リモート出力サーバによって現在処理されている、又は処理を待機しているバッチの表示を提供することです。



リモート出力サーバがバッチの処理を完了すると、情報は表から削除され、バッチステータステーブルに送信されます。バッチに障害が発生する場合、ステータスはエラーになり、詳細が表示されます。詳細は、出力ログに記載されます。



OutputServer	Workstation	Job	Batch	Status Time	Status	Description
Local Output Server	Capture_1	Ready to Scan -	Batch081	11/20/2013 5:04:16 PM	DELETED	
Lab Server	Capture_1	Ready to Scan -	Batch082	11/20/2013 5:04:18 PM	DELETED	
Local Output Server	Capture_1	Ready to Scan -	Batch083	11/20/2013 5:04:20 PM	DELETED	
Lab Server	Capture_1	Ready to Scan -	Batch084	11/20/2013 5:04:22 PM	DELETED	
Local Output Server	Capture_1	Ready to Scan -	Batch085	11/20/2013 5:04:24 PM	DELETED	
Lab Server	Capture_1	Ready to Scan -	Batch086	11/20/2013 5:04:27 PM	DELETED	
Local Output Server	Capture_1	Ready to Scan -	Batch087	11/20/2013 5:04:29 PM	DELETED	
Lab Server	Capture_1	Ready to Scan -	Batch088	11/20/2013 5:04:31 PM	DELETED	
Local Output Server	Capture_1	Ready to Scan -	Batch089	11/20/2013 5:04:33 PM	DELETED	
Lab Server	Capture_1	Ready to Scan -	Batch090	11/20/2013 5:04:35 PM	DELETED	
Local Output Server	Capture_1	Ready to Scan -	Batch091	11/20/2013 5:04:38 PM	DELETED	
Lab Server	Capture_1	Ready to Scan -	Batch092	11/20/2013 5:04:40 PM	DELETED	
Lab Server	Capture_1	Ready to Scan -	Batch096	11/21/2013 6:58:59 AM	PROCESSED	
Local Output Server	Capture_1	Ready to Scan -	Batch097	11/21/2013 6:59:20 AM	PROCESSED	

1 ページあたりのバッチは、各ページに表示するステータス項目の数を設定するために使用されます。

表示するための最大ステータスは、1 ページ以上のステータスを表示するように変更できます。リモート出力バッチステータス表のサイズは、特定の NE 環境によって異なります。例えば、リモート出力サーバが少数のクライアントからのほとんどの小さなバッチを処理する場合、処理を待機しているバッチのキューが小さく、表示するための最大ステータスが 25 に設定され得ます。ただし、ピーク期間中、多くのクライアントがリモート出力サーバに多くのバッチを送信する場合、キューに入れられた全てのバッチを表示するために、サイズを 300 に設定する必要があります。この値は、キャプチャソフトウェアサーバ（メインサーバ）からのみ設定できます。この表は、メインサーバが再起動されるたびにクリアされます。

ライセンス管理

ネットワークエディションクライアントは、オプションで中央ライセンスサーバからライセンスを取得できます。ライセンスサーバの管理は、CP ダッシュボードのライセンス管理パネルによって管理されます。

License Level	Quantity	Available
Admin	1	1
A	109	109
B	9	9
C	9	9
D	9	9
DX	9	9
E	9	9
F	107	107
G	9	9
Indexing	9	9
AutoImport	9	9
Output	3	1

User	Comp Address	Level	Time Granted	Expiration	Options
BatchOutputSen	kp-di-w9x7x0f1	Output	11/25/2013 8:19:56 AM	11/25/2013 11:20:57 AM	
BatchOutputSen	EASTMAN-501OLGA	Output	11/25/2013 9:14:56 AM	11/25/2013 11:21:57 AM	

Optional Features	Quantity	Available
Arabic OCR	5	5

ライセンス管理パネルは、以下を含みます。

- 顧客のライセンスを識別するためのシリアル番号。
- コンピュータを一意に識別するためのハードウェア ID。
- ライセンスレベルごとに、購入した数量と利用可能な数量を示すためのライセンス表。
- ユーザ名、コンピュータアドレス、ライセンスが付与された時間及びライセンスの有効期限が切れる時間を提供する現在のユーザの表。

更新：全ての表示を更新します。

バージョン情報

[バージョン情報]画面は、CPダッシュボードに関する一般的な情報を含みます。

About

© 2017 Kodak Alaris Inc. All Rights Reserved. V5.5.0

Language
English

言語：全ての CP ダッシュボード表示に適用する言語を選択できます。異なる言語を選択した後、ブラウザの [更新] ボタンを使用してページをリロードする必要があります。ページが更新されるまで、ナビゲーションバーは異なる言語の選択を反映しません。

3 トラブルシューティング

内容

エラーのロギング及び報告	3-1
通信及び接続の検証	3-2
ライセンス / 管理サーバのトラブルシューティング	3-3
デフォルトのアプリケーションプールのリサイクル間隔の設定	3-3
リモート出力サーバ	3-4
新規ユーザの追加	3-4
バッチ命名 : 毎日のカウンタリセット	3-4
アクティブディレクトリドメインコントローラ又はウィンドウズ サーバ更新サービスのホスティング	3-4
ライセンスの更新	3-5
内部サーバエラー 500	3-5

エラーのロギング及び 報告

全てのネットワークエディションコンポーネント（プロセス、サービスなど）は、エラーの報告にウィンドウズイベントログ機能を使用します。以下は、イベントビューアの概要です。詳細については、マイクロソフトのドキュメントを参照してください。

ウィンドウズイベントログ

- キャプチャプロが、他の全てのマイクロソフトアプリケーション及びオペレーティングシステムと同じ確立されたイベント報告メカニズムを使用できるようにします。
- 複数のテキストファイルを開かなくても、ネットワークエディションに関連する全てのイベントの日付順になった単一のレコードを提供します。これにより、技術支援は、システム内の様々な位置から発生した単一障害を取り巻く可能性のある一連のメッセージの単一ビューを取得できます。
- イベントソース、重大度レベル（情報、警告、エラー）、日時、ソース、及び ID での基本的なフィルタリングと並べ替えを提供します。
- ウィンドウズパワーシェルなどの他のサードパーティツールを使用し、イベントを直接監視し及び並べ替え、エラーやバッチカウンタ、発行されたライセンスなどの他のイベントにフラグを立てるのに役立つスクリプトを書き込みます。
- 管理者が他のツールを使用して分析するために、.csv を含む様々な形式でログをエクスポートできるようにします。

[コンピュータ] を右クリックして [管理] を選択し、又はコントロールパネルから [管理ツール] を選択することにより、イベントログにアクセスすることができます。

キャプチャプロ「クラシック」ログ

プレーンテキストファイル NE.log は、他のキャプチャ プロ テキストベースのログ（典型的には、C:\Documents and Settings\All Users\Documents\KCS Pro\Log\NE.log）と同じ辞書に含まれています。このログの情報は、典型的にユーザに表示されたダイアログを反映し、ウィンドウズイベントログの内容をエコーします。

通信及び接続の検証

1. サーバマップマネージャアプリケーションを起動します。
2. サーバマップを開き、各サーバを個別に選択し、[サーバチェック] ボタンをクリックします。
 - テストが成功する場合、サーバはステータスリストに利用可能として示されます。
 - テストが失敗した場合、サーバはステータスリストにヘルスチェックが失敗すると示されます。サーバマップマネージャテストの失敗は、サーバマップのエラーのためであり得ます。サーバマップマネージャを使用し、障害が発生したサーバの全てを削除し、次に、再度追加し、[サーバチェック] をクリックしてテストします。

それでもライセンスサーバとリモート管理サーバに障害が発生する場合、NEクライアントで実行されるブラウザに以下の URL を入力し、ウェブサービスに直接接続してみてください。

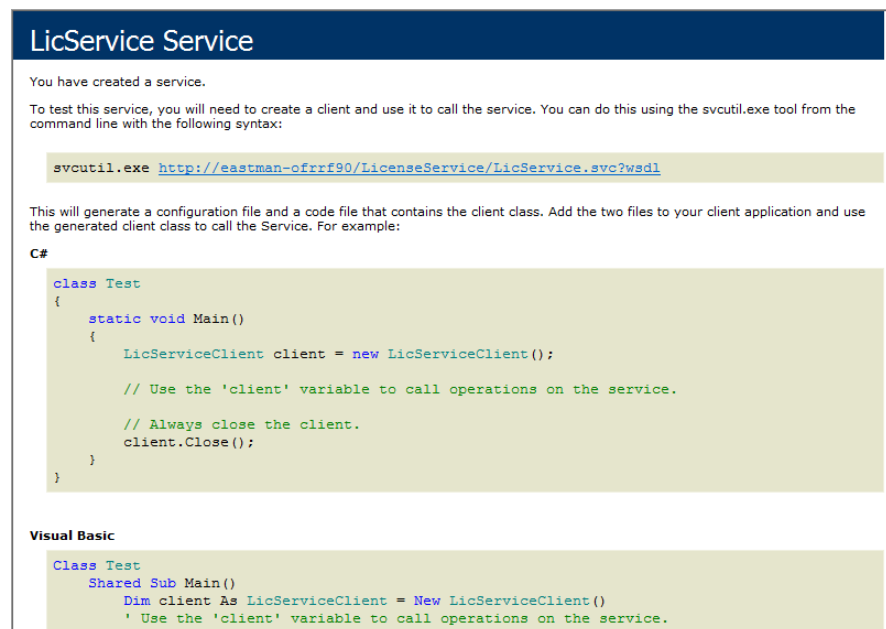
<http://mylicenseserver/LicenseService/LicService.svc>

又は、HTTPS が有効になる場合、以下のように入力し、

<https://mylicenseserver/LicenseService/LicService.svc>

URL における *mylicenseserver* は、実際のライセンスサーバとリモート管理サーバの名前若しくは IP アドレス、又は CA 認定 SSL 証明書に関連付けられたドメイン / ホスト名に置き換えられます。

ウェブサービスに問題がある場合、コダックアラリスは、サーバとクライアントとの両方でソフトウェアをアンインストールして再インストールすることをお勧めします。それでも問題が解決しない場合、顧客サポートに連絡してください。



LicService Service

You have created a service.

To test this service, you will need to create a client and use it to call the service. You can do this using the svcutil.exe tool from the command line with the following syntax:

```
svcutil.exe http://eastman-ofrrf90/LicenseService/LicService.svc?wsdl
```

This will generate a configuration file and a code file that contains the client class. Add the two files to your client application and use the generated client class to call the Service. For example:

C#

```
class Test
{
    static void Main()
    {
        LicServiceClient client = new LicServiceClient();

        // Use the 'client' variable to call operations on the service.

        // Always close the client.
        client.Close();
    }
}
```

Visual Basic

```
Class Test
    Shared Sub Main()
        Dim client As LicServiceClient = New LicServiceClient()
        ' Use the 'client' variable to call operations on the service.
    End Sub
End Class
```

LicService 画面が表示されない場合、ライセンス / 管理サーバのトラブルシューティングを行います（以下のセクションを参照してください）。

ライセンス / 管理サーバのトラブルシューティング

1. URL の *mylicenseserver* フィールドで *localhost* を使用し、サーバ自体でウェブサービス接続テスト（「通信及び接続の検証」というタイトルのセクションを参照してください）を繰り返し、サーバがウェブサービスを実行するように適切にセットアップされることを確認します。LicService 画面が表示されない場合、サーバがウェブサービスを認識するように適切に設定されない可能性があります。付録 A「ウィンドウズサーバと IIS の設定」を使用し、設定をチェックします。完了したら PC を再起動し、ローカルホストでウェブサービス接続テストを再度実行します。

注記： 上記を実行しても LicService が実行されない場合、アラリス社の技術支援に連絡してください。

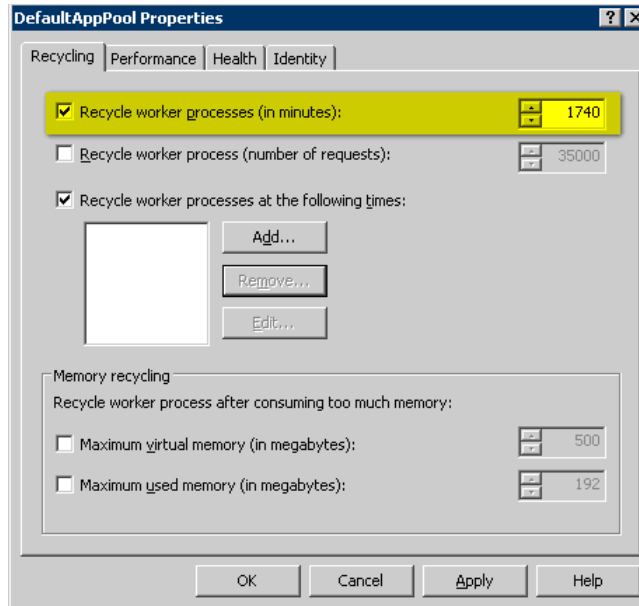
2. LicService がローカルホストから正常に実行される場合は、サーバのマシン名を使用し、クライアントからサーバのネットワーク接続を確認してみてください。これが失敗した場合、サーバの IP アドレスを使用してネットワーク接続を再度確認してみてください。マシン名又は IP アドレスを使用してネットワーク接続を確認できない場合、サーバ上のファイアウォールがアクセスを遮断している可能性があります。http ポート 80 が開いていることを確認します。ファイアウォールの問題がない場合、ネットワーク管理者に連絡してください。
3. ウィンドウズサーバにおける *KCPNServiceUser* が正常に作成され、管理者又は *IIS_IUSRS* グループの一員であることを確認します。キャプチャプロの起動時にクライアントに「リモート管理サーバと通信できませんでした。今すぐキャプチャプロを終了する必要があります」というメッセージが表示される場合、ネットワークエディションサーバのインストール中に *KCPNServiceUser* が適切に作成されない可能性があります。この場合では、*KCPNServiceUser* というローカルユーザを管理者グループに手動で追加します。

デフォルトのアプリケーションプールのリサイクル間隔の設定

デフォルトでは、IIS はデフォルトのアプリケーションプールをリサイクルし、その過程でライセンスサーバが再起動します。ログインしたクライアントではライセンス更新が失敗し、自動的に回復するため、これは通常、無害なプロセスです。暗号化キーのリセットと更新の失敗自体に関連する詳細なエラーが記載された一部のダイアログは示され得ます。

これらのエラーを排除するために、デフォルトのアプリケーションプールのリサイクルは、「休みの時間」又はメモリベースの手段で発生するように設定できます。ライセンスサービスは大量のメモリを必要としませんが、典型的なユーザのロードに基づいてインストールごとに特定の設定を決定する必要があります。

デフォルトのアプリケーションプールのリサイクル間隔は、ユーザが典型的にログオフする期間に設定する必要があります。



注記： デフォルトのアプリケーションプールの設定中にクライアントがログオフしてから、再度ログインすることをお勧めします。

リモート出力サーバ

リモート出力サーバの起動が失敗する場合、又はライセンス管理ダッシュボードの出力サーバがライセンスを取得しないことに気付いた場合、**Windows Still 撮像**コンポーネントがインストールされることを確認します。

Windows Still 撮像コンポーネントは、「ユーザインターフェイスとインフラストラクチャ」、「デスクトップエクスペリエンス」機能の一部です。詳細については、この章で後述する「サーバ 2008 への Windows Still 撮像コンポーネントのインストール」というタイトルのセクションを参照してください。

新規ユーザの追加

新規ユーザがシステムに追加された後にクライアントを最初に起動すると、新規ユーザ ID を使用してログインできないことに気が入ります。まず、既存のユーザ ID を使用してログインする必要があります。クライアントがサーバと同期した後、新規ユーザ ID を使用してログオフ及びログインできます。

バッチ命名：毎日のカウンタリセット

バッチ命名オプションである *毎日のカウンタリセット* は、ネットワークエディションのインストールの大部分のジョブセットアップ設定では適切に機能しません。バッチ番号は、特定のジョブセットアップを使用する全てのクライアントのサーバによって維持されます。バッチカウンタのリセットは不明瞭です。このオプションは使用しないことをお勧めします。

アクティブディレクトリドメインコントローラ又はウィンドウズサーバ更新サービスのホスティング

サーバを使用してアクティブディレクトリドメインコントローラ又はウィンドウズサーバ更新サービスをホストすると、内部サーバエラー 500 が発生し得ます。

ライセンスの更新

IIS デフォルトのアプリケーションプールがリサイクルされると、クライアントライセンスが古くなる可能性があります。これが発生すると、クライアントライセンスを更新するかどうかをユーザに尋ねるメッセージボックスが表示されます。このメッセージボックスを抑制するために、以下を「env.info」ファイルに追加することができます。

```
[Network Edition]
MaxRetryRenew=5
RenewWithMsgBox=0
```

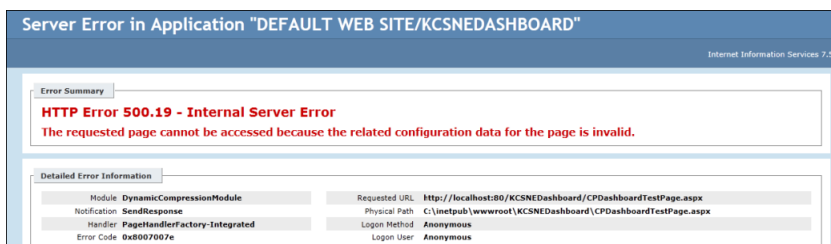
RenewWithMsgBox=0 の場合、クライアント更新メッセージは表示されません。

RenewWithMsgBox が定義されない場合、又は **RenewWithMsgBox=1** の場合、更新メッセージボックスが表示されます。

RenewWithMsgBox=0 のように設定すると、更新メッセージを確認するオペレータがいない可能性のある自動インポートクライアントに特に役立ちます。

内部サーバエラー 500

サーバ 2008R2 又はサーバ 2012 を使用してアクティブディレクトリドメインコントローラ又はウィンドウズサーバ更新サービス (WSUS) もホストする場合、内部サーバエラー 500 が発生する可能性があります。



このエラーは、更新サービスで使用される圧縮スキームに関連する可能性があります。圧縮を無効にすると、サーバ上の 32 ビットアプリケーションと 64 ビットアプリケーションがよく連携できます。

内容

ウィンドウズサーバ 2012R2 でキャプチャプロサーバソフトウェアを使用するための要件	A-2
WCF サービスのインストール	A-2
IIS のインストールと設定	A-5
WebDAV のインストール	A-6
ウィンドウズ認証のインストール	A-7
IIS6 互換性コンポーネントのインストールと設定	A-8
ユーザインターフェイス - デスクトップエクスペリエンス (ウィンドウズ 2012R2 のみ) のインストール	A-9
アプリケーション開発機能のインストール	A-10
IIS8.0 設定 (64 ビット)	A-11
改良型 WebDAV セキュリティ	A-12
オプション : CA 認定 SSL 証明書を使用した IISHTTPS サイト バインディングの設定	A-14

ウィンドウズサーバ 2012R2 でキャプチャ ロサーバソフトウェア を使用するための要件

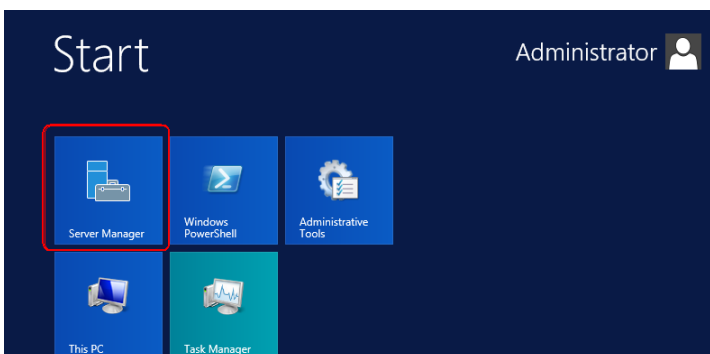
キャプチャプロサーバソフトウェアをインストールする前、

- 更新プログラムがインストールされることを確認します。
- マイクロソフト .NET フレームワーク v? SP1 をインストールします。「マイクロソフト .NET フレームワーク v? のインストール」というタイトルのセクションを参照してください。
- インターネットインフォメーションサービス (IIS) をインストールします。「IIS のインストールと設定」というタイトルのセクションを参照してください。
- WebDAV をインストールします。「WebDAV のインストール」というタイトルのセクションを参照してください。
- ウィンドウズ認証インストールします。「ウィンドウズ認証のインストール」というタイトルのセクションを参照してください。
- IIS6 互換性コンポーネントをインストールします。「IIS6 のインストールと設定」というタイトルのセクションを参照してください。
- ユーザインターフェイスをインストールします。「ユーザインターフェイス - デスクトップエクスペリエンスのインストール」というタイトルのセクションを参照してください。
- アプリケーション開発機能をインストールします。「アプリケーション開発機能のインストール」というタイトルのセクションを参照してください。
- IIS8 を設定します。「IIS8.0 設定 (64 ビット)」というタイトルのセクションを参照してください。

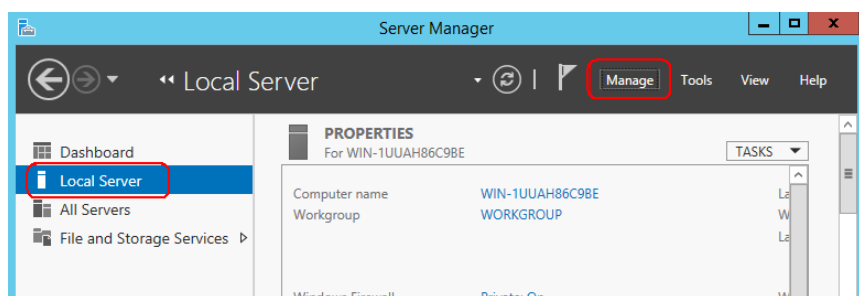
WCF サービスのイン ストール

インストールの前、WCF サービスをインストールする必要があります。

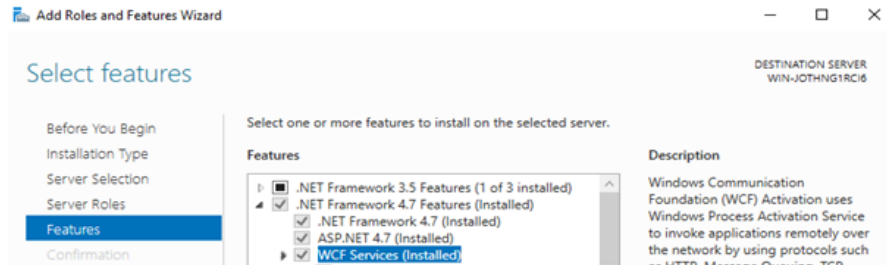
1. [開始] 画面で [サーバマネージャ] をクリックします。



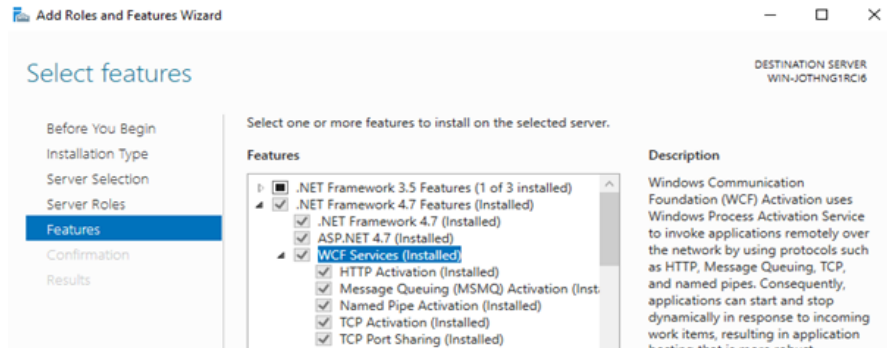
2. [ローカルサーバ] を選択し、[管理] をクリックしてから、[役割と機能の追加] をクリックします。



3. [機能] を選択し、機能リストから .NET フレームワーク 4.7 の機能を展開します。

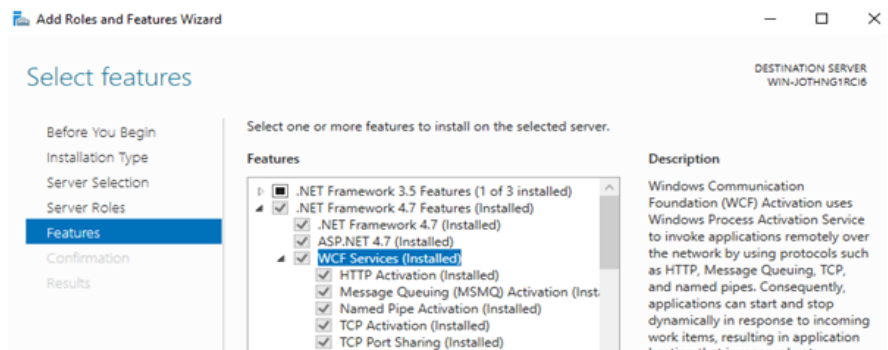


4. [WCF サービス] を選択し、ドロップダウンをクリックしてオプションを閲覧します。

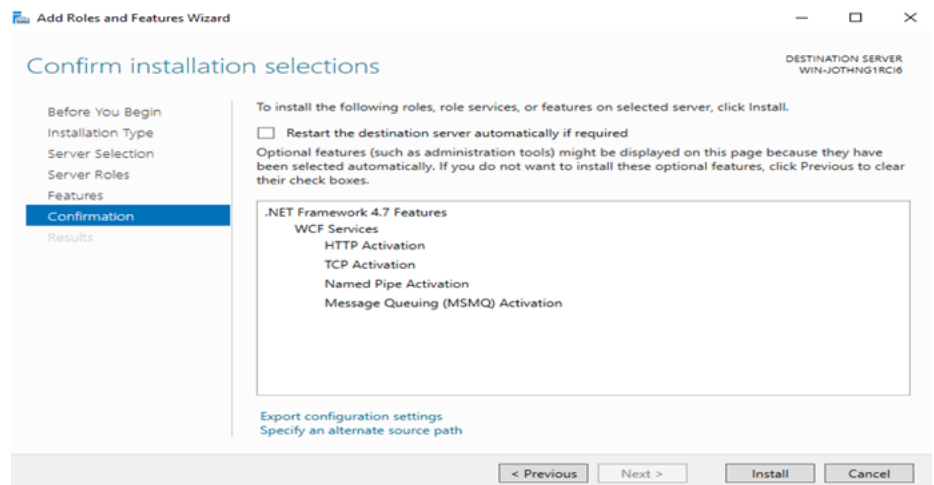


5. 以下のオプションを選択し、[次へ] をクリックします。

- HTTP アクティベーション
- メッセージキュー（MSMQ）のアクティベーション
- 名前付きパイプアクティベーション
- TCP アクティベーション：これはポート共有を自動的にトリガーしますか。



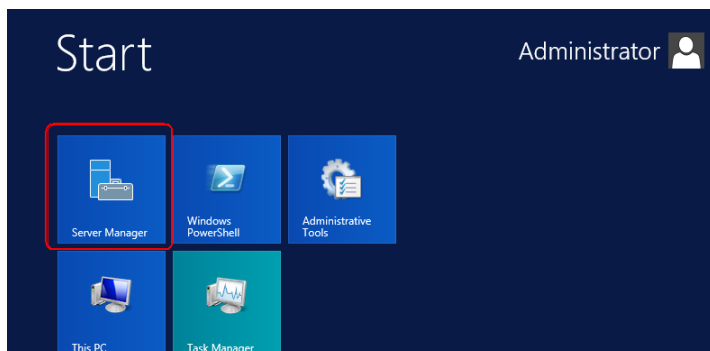
6. [確認] 画面から [インストールします] をクリックします。



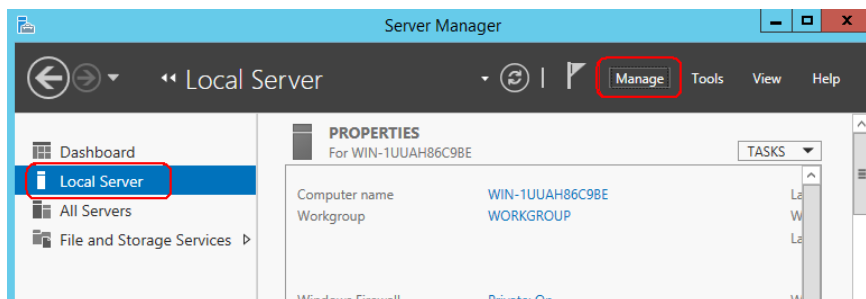
IIS のインストールと設定

NE サーバのインストール中、メッセージインターネットインフォメーションサービス (IIS) が必要ですが、このシステムにインストールされません。[最初に IIS をインストールしてください] が表示されると、IIS をインストールする必要があります。

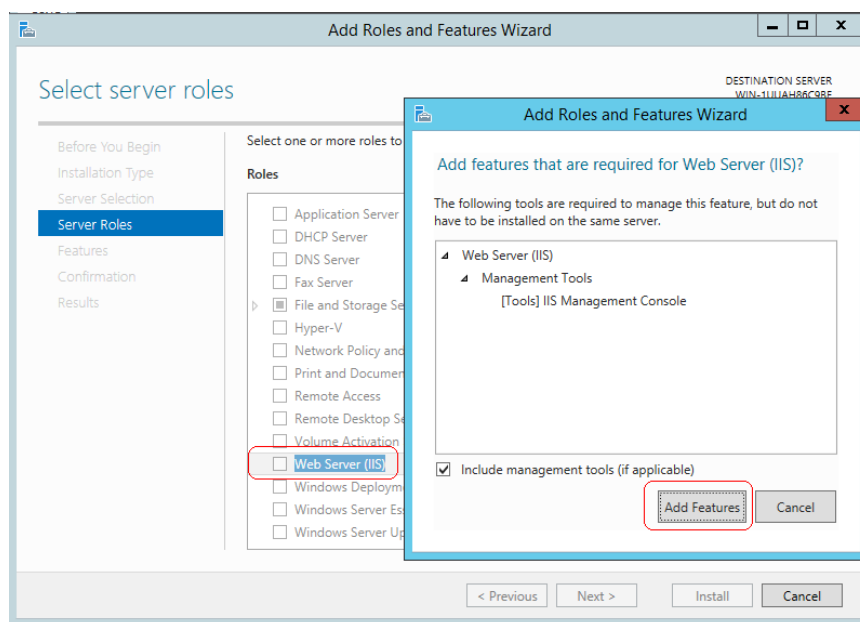
1. [開始] 画面で [サーバマネージャ] をクリックします。



2. [ローカルサーバ] を選択し、[管理] をクリックしてから、[役割と機能の追加] をクリックします。



3. [サーバの役割] を選択し、[ウェブサーバ (IIS)] をチェックします。役割と機能の追加ウィザードが表示されます。

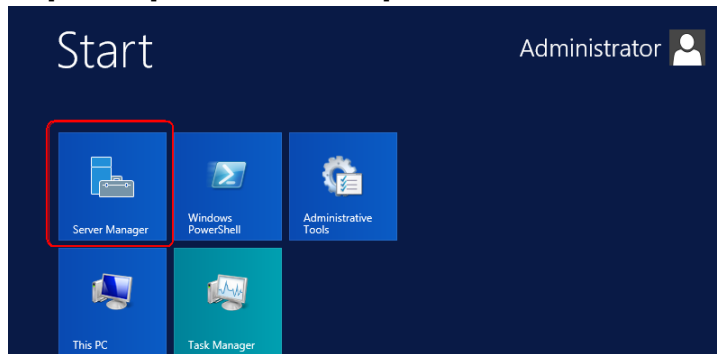


4. [機能の追加] をクリックし、[次へ] をクリックします。
5. [インストールします] をクリックします。

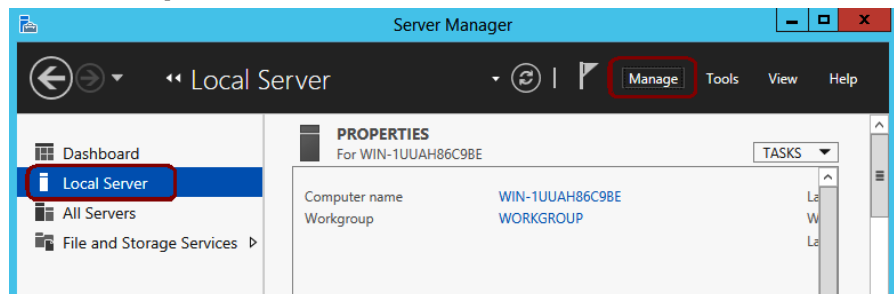
WebDAV のインストール

NE サーバのインストール中に、「**IIS コンポーネントの WebDAV モジュールが必要ですが、このシステムにインストールされません。インストールを続行しますか。**」というメッセージが表示される場合、WebDav モジュールをインストールする必要があります。

1. [開始] 画面で [サーバマネージャ] をクリックします。

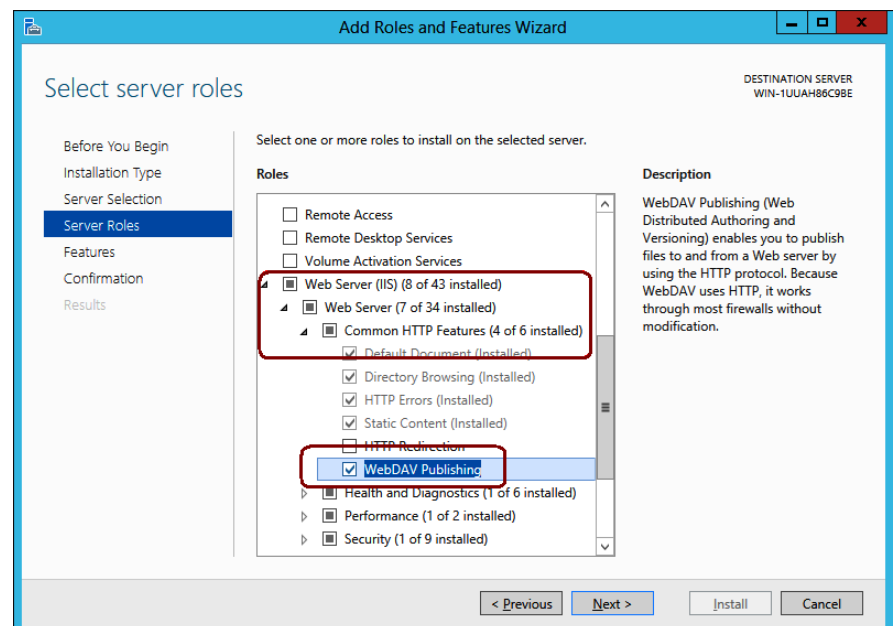


2. [ローカルサーバ] を選択し、次に、[管理] をクリックしてから、[役割と機能の追加] をクリックします。



3. [サーバの役割] を選択し、以下を展開します。

- ウェブサーバ (IIS)
- ウェブサーバ
- 共通の HTTP 機能

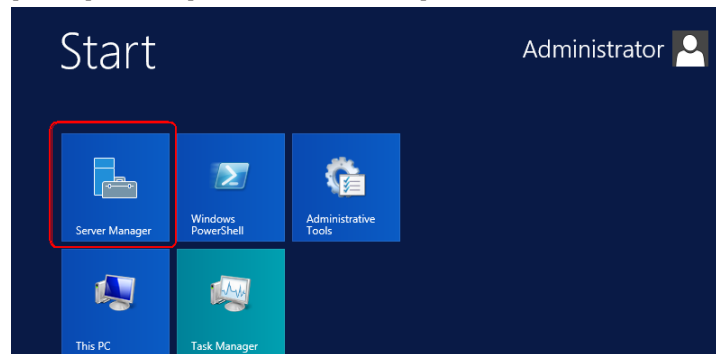


4. **WebDAV 発行** をチェックし、「次へ」をクリックします。
5. [インストールします] をクリックします。

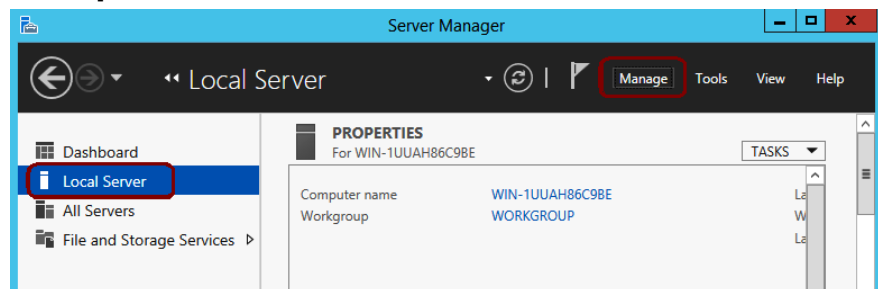
ウィンドウズ認証のインストール

NE サーバのインストール中、「**IIS コンポーネントのウィンドウズ認証モジュールが必要ですが、このシステムにインストールされません。インストールを続行しますか。**」というメッセージが表示される場合、ウィンドウズ認証モジュールをインストールする必要があります。

1. [開始]画面で[サーバマネージャ]をクリックします。

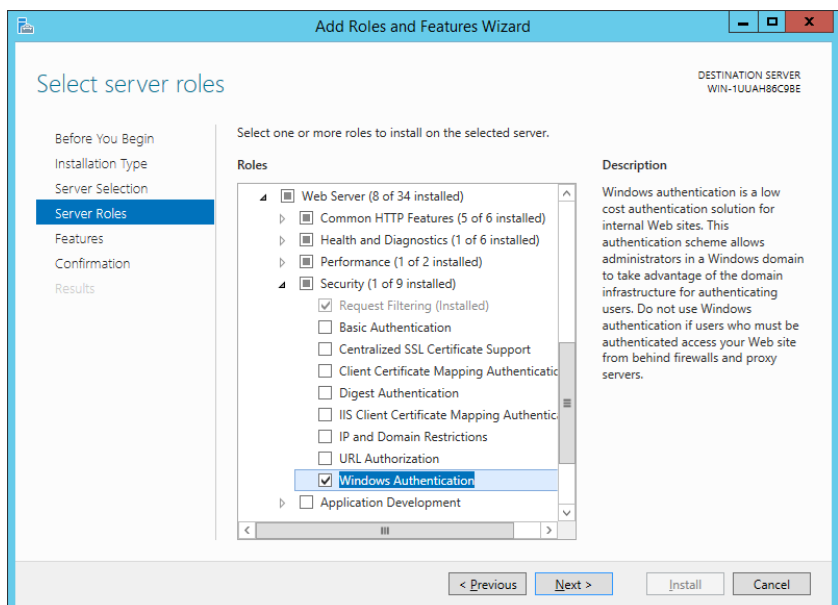


2. [ローカルサーバ]を選択し、[管理]をクリックしてから、[役割と機能の追加]をクリックします。



3. [サーバの役割]を選択し、以下を展開します。

- ウェブサーバ (IIS)
- ウェブサーバ
- セキュリティ

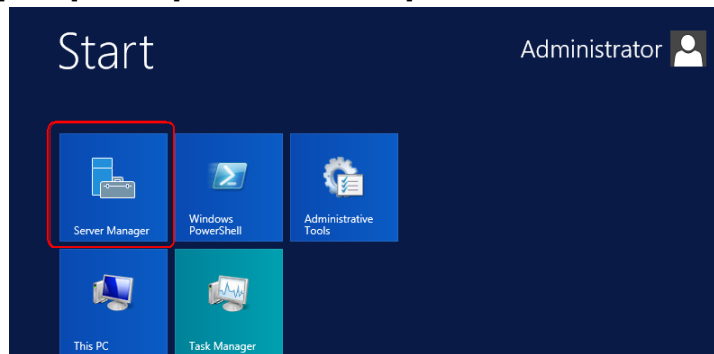


4. ウィンドウズ認証をチェックし、「次へ」をクリックします。
5. [インストールします]をクリックします。

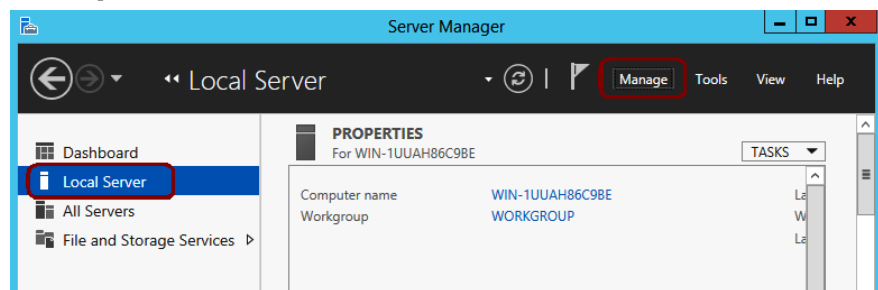
IIS6 互換性コンポーネントのインストールと設定

NE サーバのインストール中に、「IIS6 互換性モジュールが必要ですが、このシステムにインストールされません。インストールを続行しますか。」というメッセージが表示される場合、IIS6 互換性モジュールをインストールする必要があります。

1. [開始]画面で[サーバマネージャ]をクリックします。

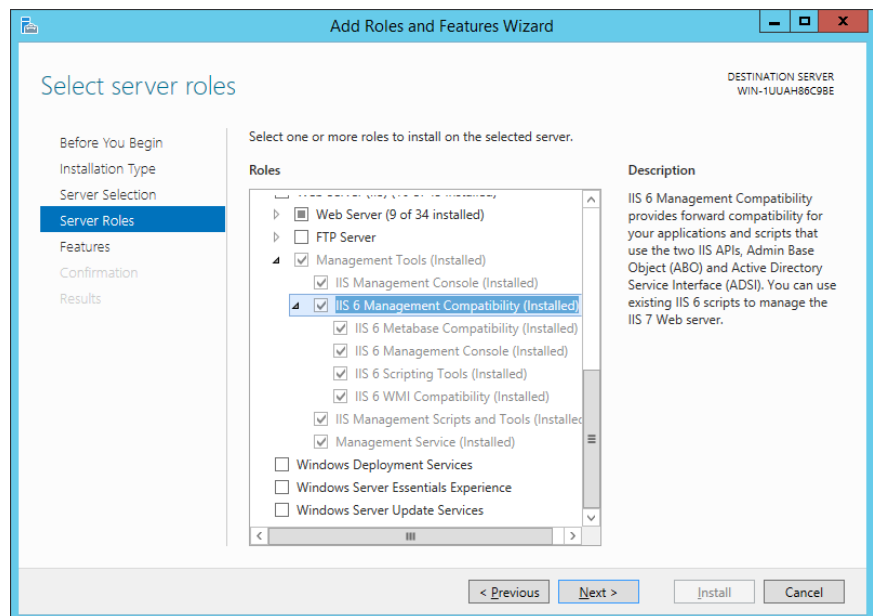


2. [ローカルサーバ]を選択し、[管理]をクリックしてから、[役割と機能の追加]をクリックします。



3. [サーバの役割]を選択し、以下を展開します。

- ウェブサーバ (IIS)
- 管理ツール (インストール済み)

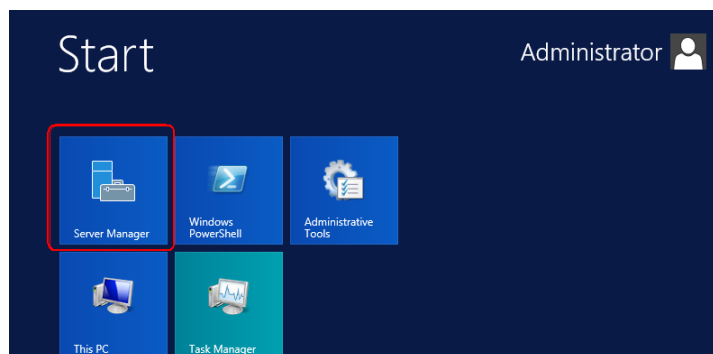


4. IIS6 管理の互換性 (インストール済み) をチェックし、[次へ]をクリックします。
5. [インストールします]をクリックします。

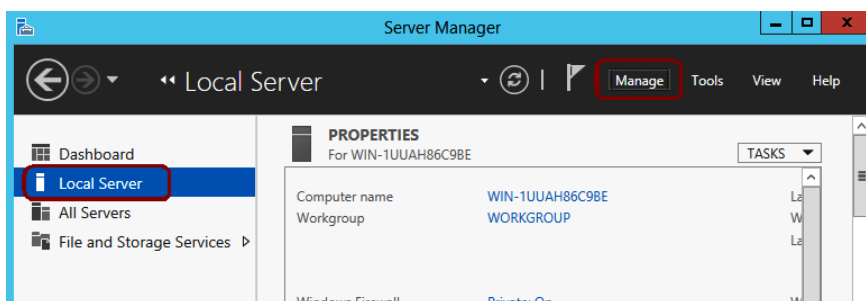
注記：これは、.NET4.5 フレームワークのインストールも必要とする場合があります。

ユーザインターフェイス - デスクトップエクスペリエンス (ウィンドウズ 2012R2 のみ) のインストール

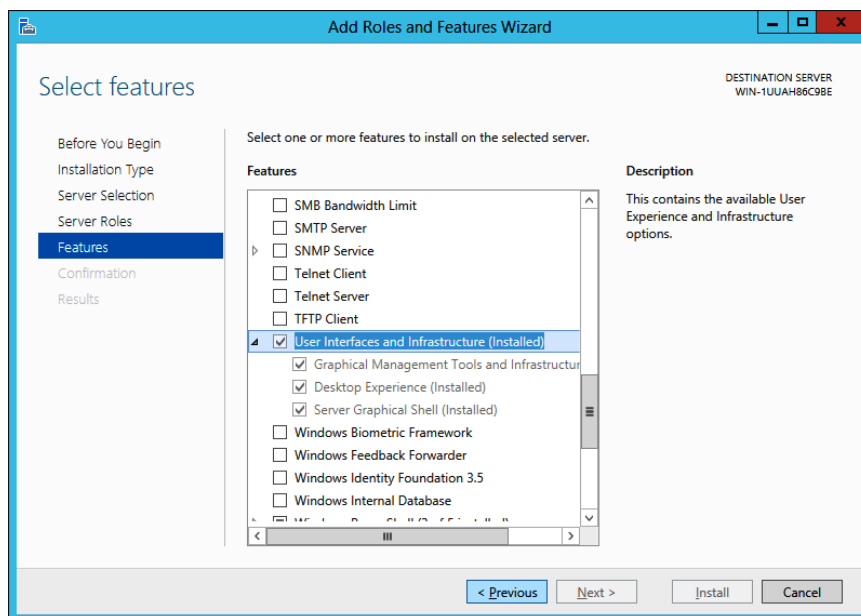
1. [開始] 画面で [サーバマネージャ] をクリックします。



2. [ローカルサーバ] を選択し、[管理] をクリックしてから、[役割と機能の追加] をクリックします。



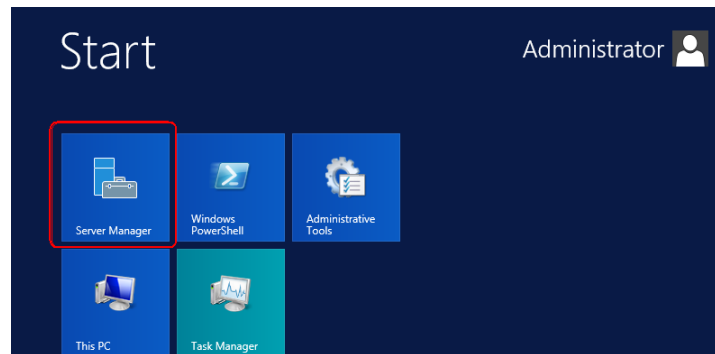
3. [機能] を選択し、[ユーザインターフェイスとインフラストラクチャ (インストール済み)] を展開します。



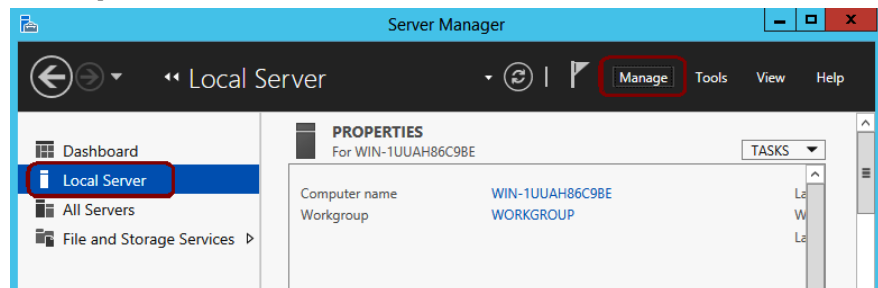
4. [デスクトップエクスペリエンス] を選択し、[次へ] をクリックします。
5. [インストールします] をクリックします。

アプリケーション開発機能のインストール

1. [開始] 画面で [サーバマネージャ] をクリックします。

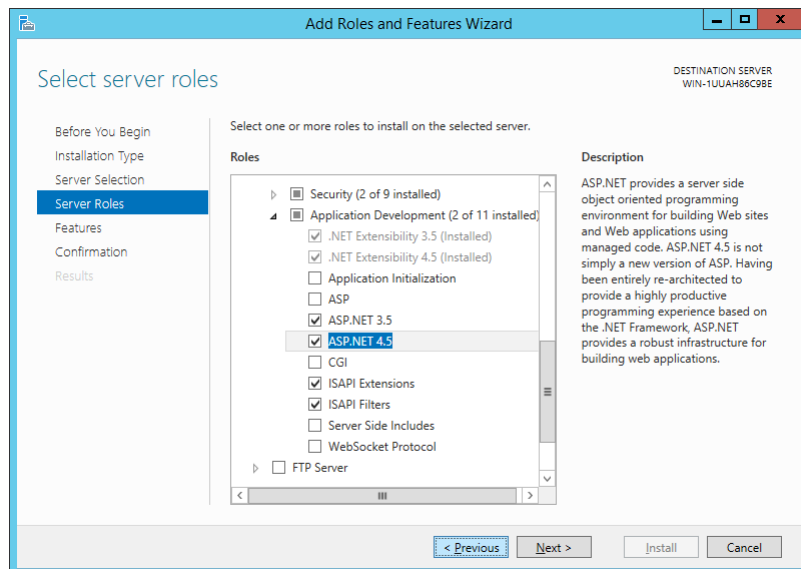


2. [ローカルサーバ] を選択し、[管理] をクリックしてから、[役割と機能の追加] をクリックします。



3. [サーバの役割] を選択し、以下を展開します。

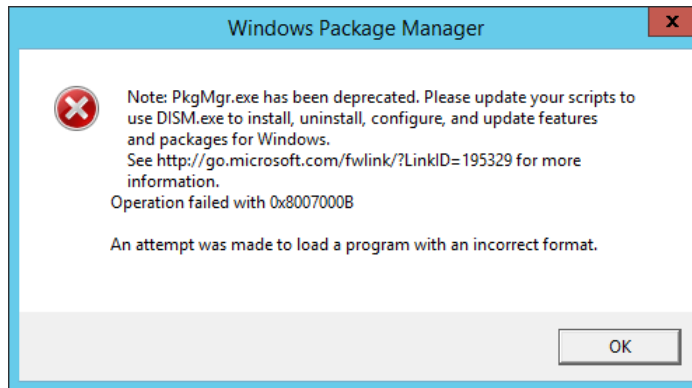
- ウェブサーバ (IIS)
- ウェブサーバ
- アプリケーション開発



4. 以下のボックスがチェックされたことを確認します。

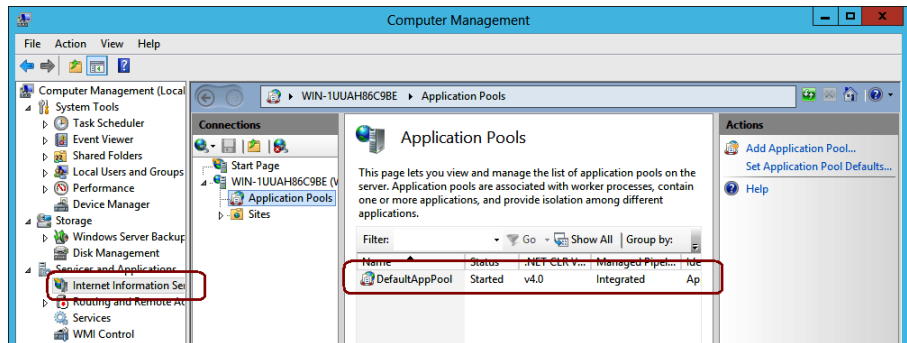
- .NET 拡張性 3.5
- .NET 拡張性 4.5
- ASP.NET 3.5
- ASP.NET 4.5
- ISAPI 拡張機能
- ISAPI フィルタ

5. 項目のいずれか一項をチェックする必要がある場合、項目を選択して [インストールします] をクリックします
6. インストール中に以下のメッセージが表示された場合、[OK] をクリックしてインストールを完了します。

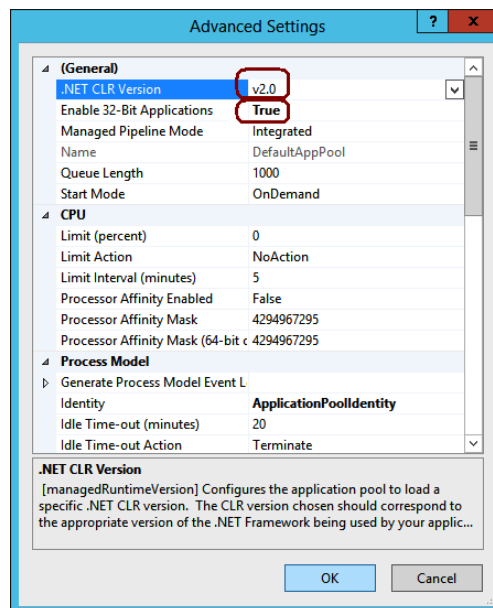


IIS8.0 設定 (64 ビット)

1. IIS マネージャを開き、[アプリケーションプール] を選択します。



2. [デフォルトのアプリケーションプール] を右クリックし、[詳細設定] を選択します。

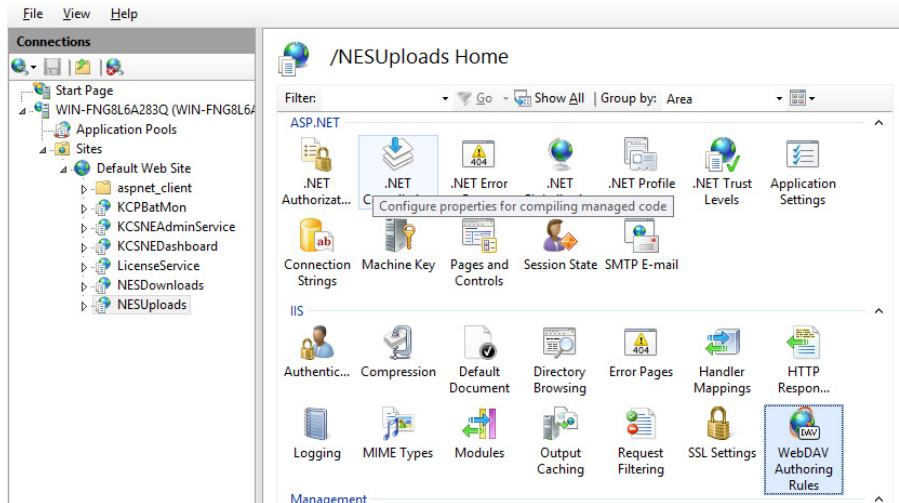


3. .NET CLR バージョンを v2.0 に設定し、[32 ビットアプリケーションを有効にします] を [正確] に設定します。

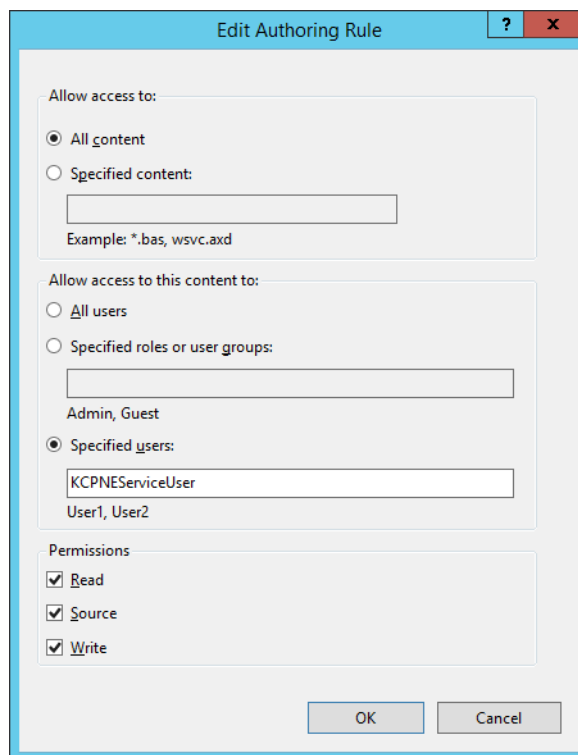
改良型 WebDAV セキュリティ

いくつかの環境では、WebDAV をインストールして有効にすると、セキュリティ上の問題が発生する可能性があります。WebDAV セキュリティは、オーサリング規則を指定することで改良される可能性があります。

1. IIS を起動します。
2. [サイト] を展開し、[デフォルトのウェブサイト] で [NES アップロード] を選択します。



3. [WebDAV オーサリング規則] を選択します。
4. [デフォルトのオーサリング規則] を選択します。
5. オーサリング規則を更新し、ユーザの `KCPNServiceUser` を指定します。
6. [OK] をクリックします。



7. デフォルトのウェブサイトで、[NESRemoteBatch] を選択します。

8. [デフォルトのオーサリング規則] を選択します。
9. オーサリング規則を更新し、ユーザの *KCPNServiceUser* を指定し、**読み取り及びソース権限**を無効にします。
10. [OK] をクリックします。

Dialog box titled "Edit Authoring Rule" with a question mark icon and a close button (X).

Allow access to:

- All content
- Specified content:
[Text box]
Example: *.bas, wsvc.axd

Allow access to this content to:

- All users
- Specified roles or user groups:
[Text box]
Admin, Guest
- Specified users:
[Text box containing KCPNServiceUser]
User1, User2

Permissions

- Read
- Source
- Write

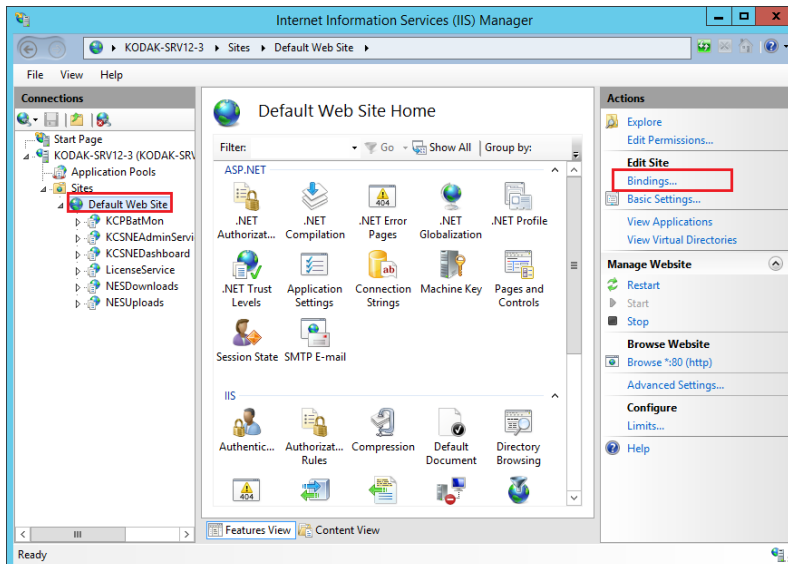
Buttons: OK, Cancel

オプション：CA 認定 SSL 証明書を使用した IISHTTPS サイトバ インディングの設定

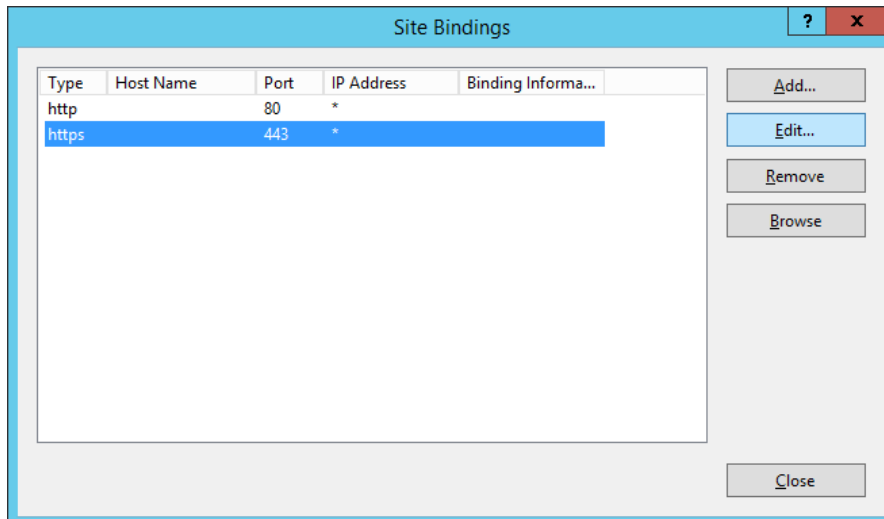
独自の CA 認定 SSL 証明書を使用する場合、それはローカルマシン / パーソナルストアの証明書マネージャにインストールして追加する必要があります。

証明書がインストールされたら、以下のステップに従います。

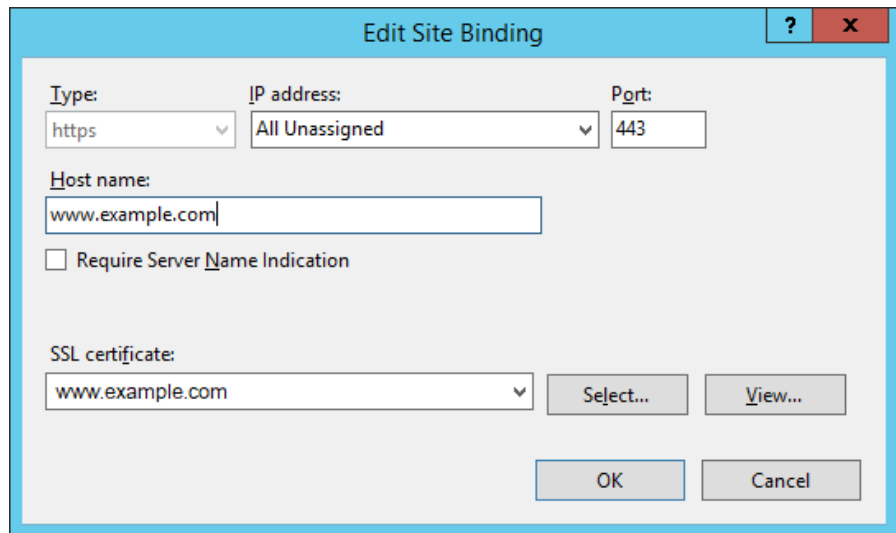
1. IIS マネージャーを起動します。
2. [デフォルトのウェブサイト] を選択し、[サイトの編集] の下の [バインディング ...] を開きます。



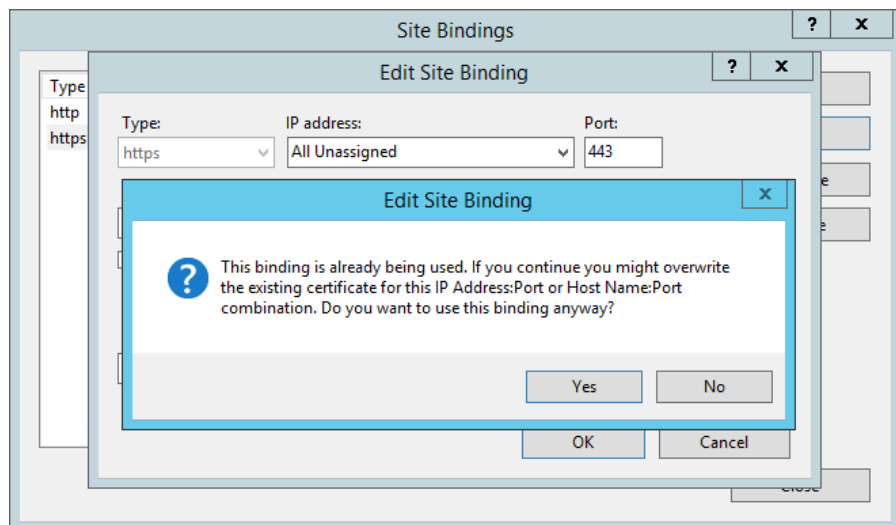
3. [https] を選択し、[編集] をクリックします。



- 証明書がドメイン / ホスト名に関連付けられる場合、ドメイン / ホスト名 (www.example.com など) を入力します。SSL 証明書のドロップダウンには、証明書の名前がリストされます。[選択] をクリックし、ステップ 1 でインストールした証明書を閲覧及び選択します。



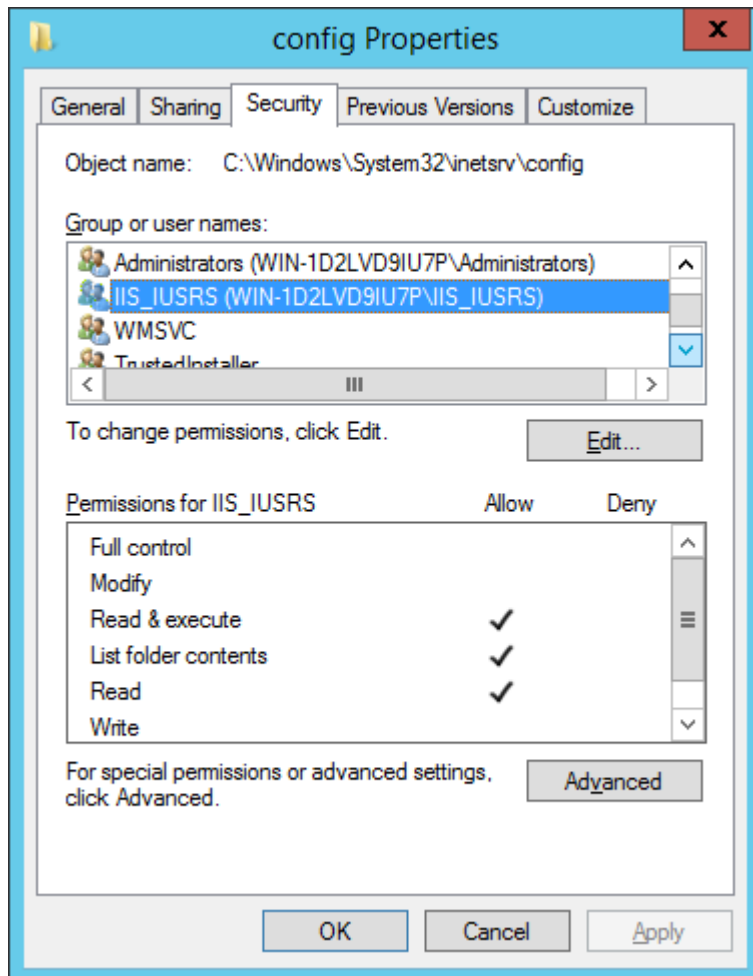
- 警告メッセージが表示されると、[はい] を選択します。



- [OK] をクリックし、[サイトバインディング] ウィンドウを閉じます。

7. フォルダ「C:\Windows\System32\inetrv\config」への読み取りアクセスを提供する必要があります。

[セキュリティ]タブを選択し、グループ名「IIS_IUSRS」を追加します。

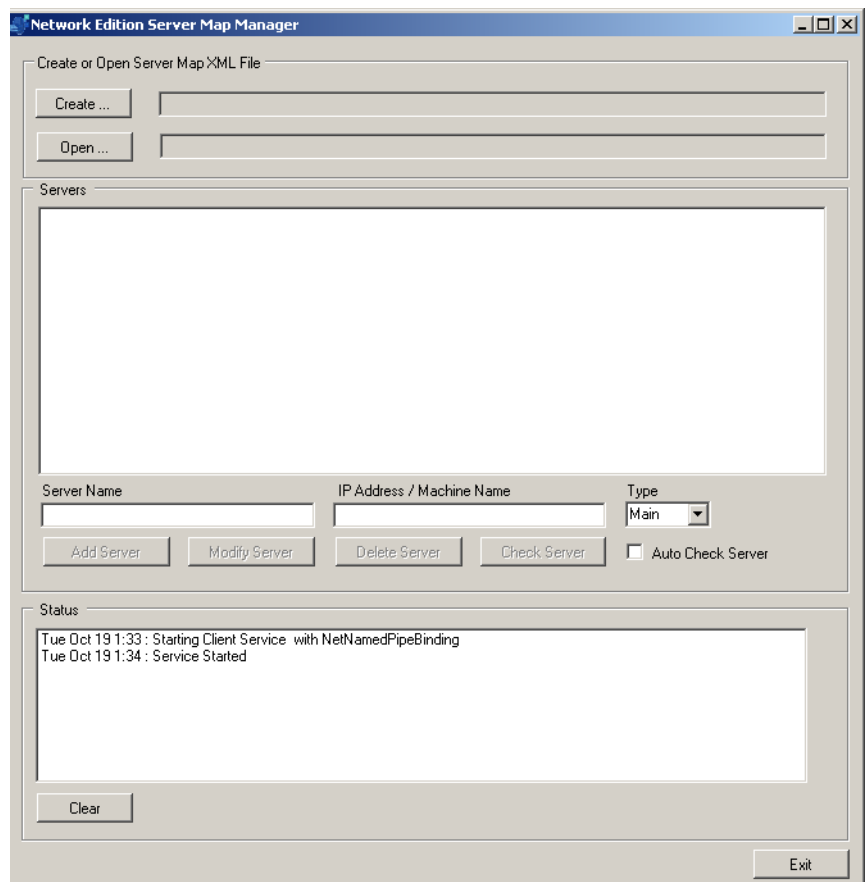


ネットワークエディションサーバマップマネージャ (SMM) は、キャプチャプロソフトウェアネットワークエディションのインストール中に使用されたアプリケーションです。それにより、ユーザはキャプチャプロネットワークエディションで使用された最初の KCSServerMap.xml ファイルを作成及び編集できます。

KCSServerMap.xml は、ライセンスサーバ、リモート管理サーバ及びオプションのリモート出力サーバの名前と URL を含みます。サーバマップは、クライアントワークステーション及びオプションのリモート出力サーバをインストールする時に必要です。

サーバマップマネージャは、キャプチャプロサーバソフトウェアディスクにあります。キャプチャプロサーバフォルダから、ユーティリティフォルダを選択し、サーバマップマネージャツールフォルダを開きます。サーバマップマネージャアプリケーションを起動します。

サーバマップマネージャツールフォルダをローカルドライブにコピーし、そこからアプリケーションを実行することもできます。



新規サーバマップ.xml ファイルの作成（サー バの追加）

1. [作成] を選択します。フォルダブラウザが表示されます。
2. 新規サーバマップ.xml ファイルを作成するフォルダを選択します。

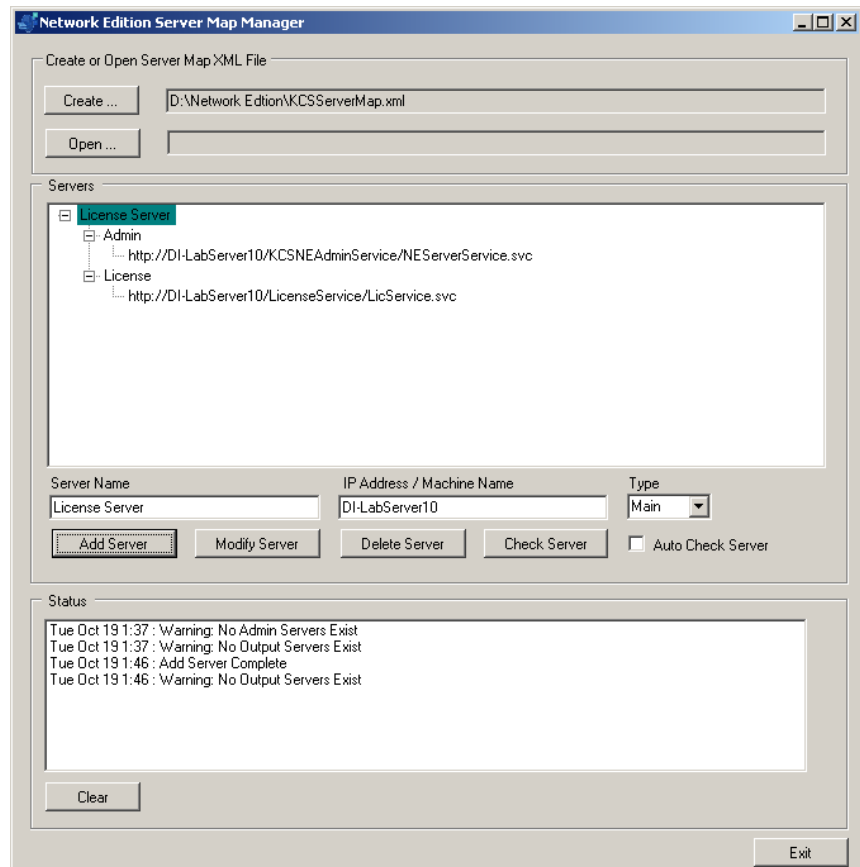
注記：

- このパスには、ファイル名 KCSServerMap.xml が追加されます。ファイル名を上書きする方法はありません。そのフォルダにサーバマップファイルが既に存在する場合、上書き警告が表示されます。[はい] を選択すると、既存のファイルが空のサーバマップファイルに置き換えられます。取り消すことはできません。[いいえ] を選択すると、既存のファイルは変更されません。
- 残りのステップでは、付録 C におけるワークシートからの情報が必要になります。
- 定義されたサーバごとに、サーバ名と IP アドレス / マシン名は一意である必要があります。

3. 最初にライセンス / 管理 (メイン) サーバを追加します。[サーバ名] フィールドにユーザフレンドリーな名前を入力し、[IP アドレス / マシン名] フィールドに IP アドレス又はマシン名を入力します。

注記： IIS サイトバインディング (HTTPS) を実行した場合、SSL 証明書に関連付けられたホスト名を [IP アドレス / マシン名] フィールドに入力します。

4. [タイプ] ドロップダウンボックスから [メイン] を選択します。
5. サーバが既にインストールされる場合、[サーバの自動チェック] をチェックし、ライセンスサーバとの通信を確認します。
6. [サーバの追加] を選択します。SMM は、現在の KCSServerMap.xml ファイルの内容に追加する前に情報を検証します。メインサーバを追加すると、管理サーバとライセンスサーバとの両方が同時に追加されます。バックアップメインサーバを追加するために、ステップ 3 ~ 6 を繰り返します。



7. **[終了]** をクリックして [ネットワークエディションサーバマップマネージャ] ウィンドウを閉じ、又は以下のステップに進んでリモート出力サーバを追加します。

注記： 現在、リモート出力サーバをライセンス / リモート管理サーバと同じサーバにインストールできます。ただし、システムの全体的なパフォーマンスのために、キャプチャプロソフトウェアサーバとリモート出力サーバは別々のサーバに分けることをお勧めします。

8. 1つがインストールされる場合、リモート出力サーバを追加します。[サーバ名] フィールドにユーザフレンドリーな名前を入力し、[IP アドレス / マシン名] フィールドに IP アドレス又はマシン名を入力します。
9. [タイプ] ドロップダウンボックスから **[出力]** を選択します。
10. **[自動チェックサーバ]** が有効にならないことを確認します。
11. **[サーバの追加]** を選択します。出力サーバを追加するために、ステップ 8 ~ 11 を繰り返します。
12. **[終了]** をクリックし、[ネットワークエディションサーバマップマネージャ] ウィンドウを閉じます。完成したサーバマップ .xml ファイルは、ステップ 2 で選択したフォルダに記憶されます。

注記： デフォルトでは、インテル標準画像処理ライブラリは Windows 2008 サーバにインストールされません。システムエラーが発現した場合、**STI.dll がコンピュータから紛失するため、プログラムを起動できません。この問題を解決するために、プログラムを再インストールして、第 3 章「トラブルシューティング」の「サーバ 2008 への Windows Still 撮像コンポーネントのインストール」というタイトルのセクションを参照してください。**

開く： 既存のサーバマップ .xml ファイルを参照して選択するために使用します。

サーバの変更： サーバに加えられた変更は、サーバリスト及び現在の KCSServerMap.xml ファイルの現在の情報を上書きします。取り消し操作はできません。**[サーバの変更]** を選択すると、SMM は情報を検証してから、現在の KCSServerMap.xml ファイルの内容に追加します。定義されたサーバごとに、サーバ名と IP アドレス / マシン名は一意である必要があります。

サーバの削除： サーバを削除すると、サーバリストの現在の情報と現在の KCSServerMap.xml ファイルを削除します。取り消し操作はできません。**[サーバの削除]** を選択すると、[サーバ] リストで選択した項目が、KCSServerMap.xml ファイルの情報とともに削除されます。

自動チェックサーバ： サーバの接続を確認できます。**自動チェックサーバ** はデフォルトではチェックされません。チェックすると、サーバが追加又は変更されるたびにサーバ接続が検証されます。接続を確立できない場合、適切なエラーがステータスリストに表示されます。

KCSServerMap.xml ファイルを開いた時に**自動チェックサーバ** が選択される場合、各サーバの接続パスの接続がチェックされます。確立できない接続ごとに、適切なエラーがステータスリストに表示されます。

サーバのチェック： ユーザはサーバリストから選択したサーバを手動でチェックできます。接続を確立できない場合、適切なエラーがステータスリストに表示されます。

KCSServerMap.xml の内容

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<KCP_Server_Map xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema">
  <Servers>
    <Server Type="Admin">
      <ServerName>F90</ServerName>
      <ConnProtocol>HTTP</ConnProtocol>
      <ConnPath>http://EASTMAN-OFRRF90/KCSNEAdminService/
NEServerService.svc</ConnPath>
      <UserName />
      <Password />
    </Server>
    <Server Type="License">
      <ServerName>F90 License</ServerName>
      <ConnProtocol>HTTP</ConnProtocol>
      <ConnPath>http://EASTMAN-OFRRF90/LicenseService/LicService.svc</
ConnPath>
      <UserName />
      <Password />
    </Server>
    <Server Type="Output">
      <ServerName>CU</ServerName>
      <ConnProtocol>HTTP</ConnProtocol>
      <ConnPath>http://EASTMAN-0NPT0CU/KCSNEOutputService/
NEServerService.svc</ConnPath>
      <UserName />
      <Password />
    </Server>
  </Servers>
</KCP_Server_Map>
```